

373

96千

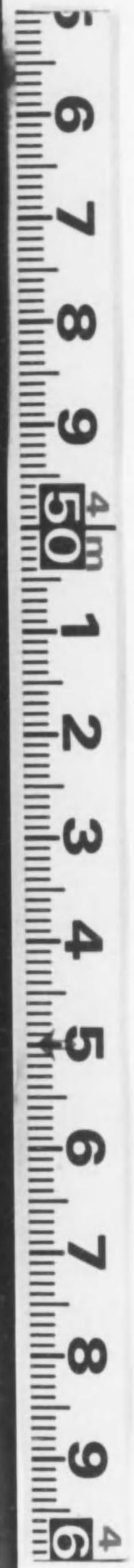
373-96千



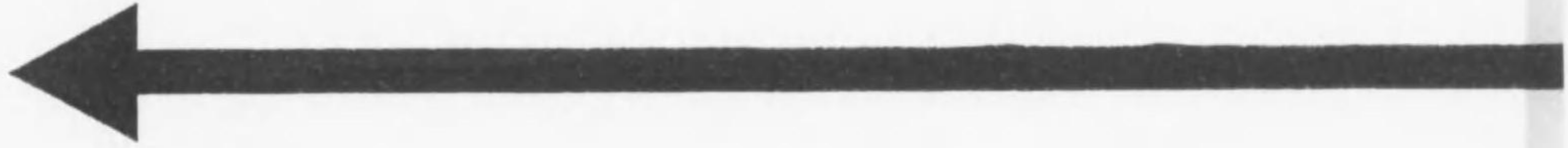
1200501449495

徽州館陳列品略解

神宮徽州館農業館發行

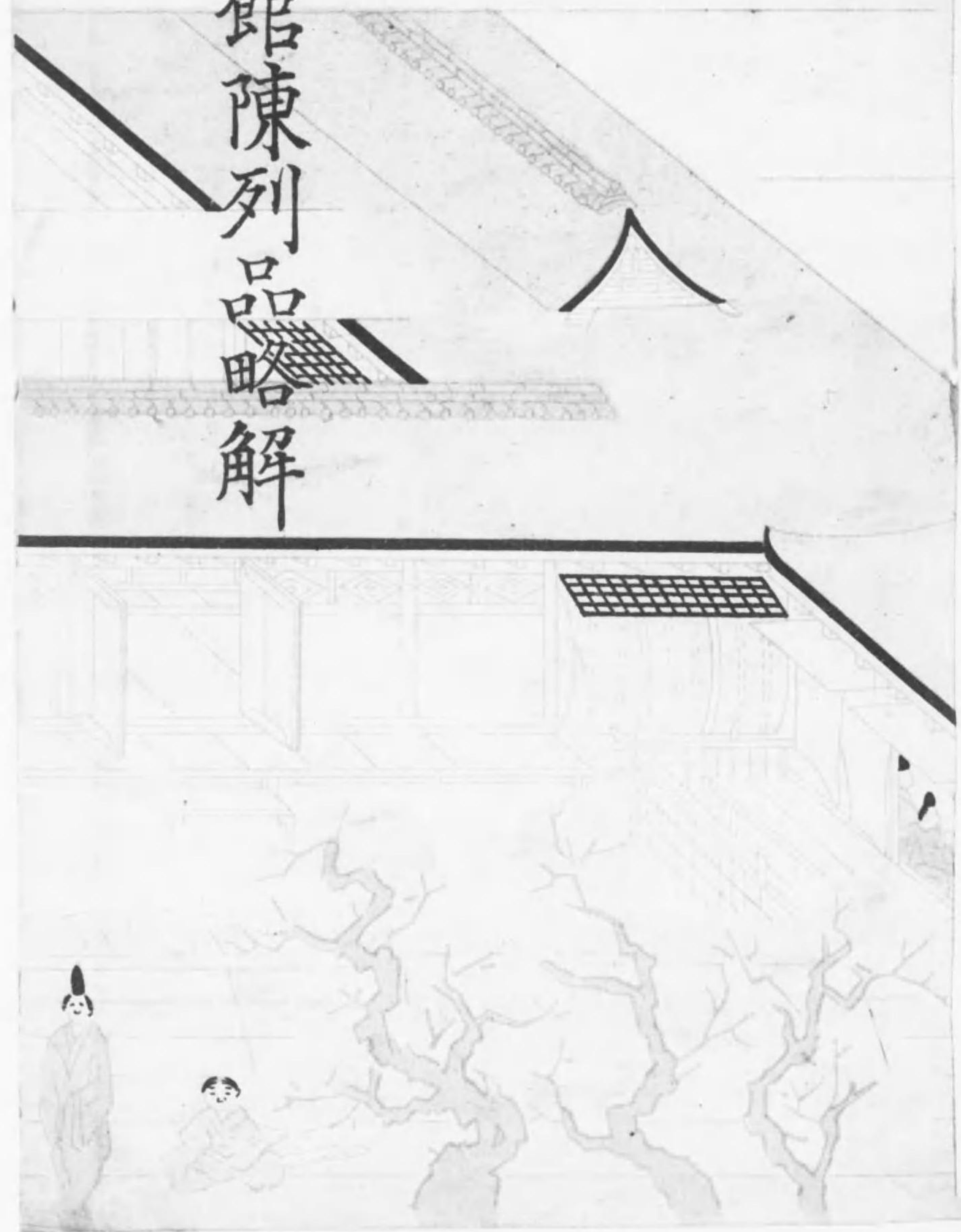


始



37
96

徵古館陳列品略解





徵古館

陳列品略解

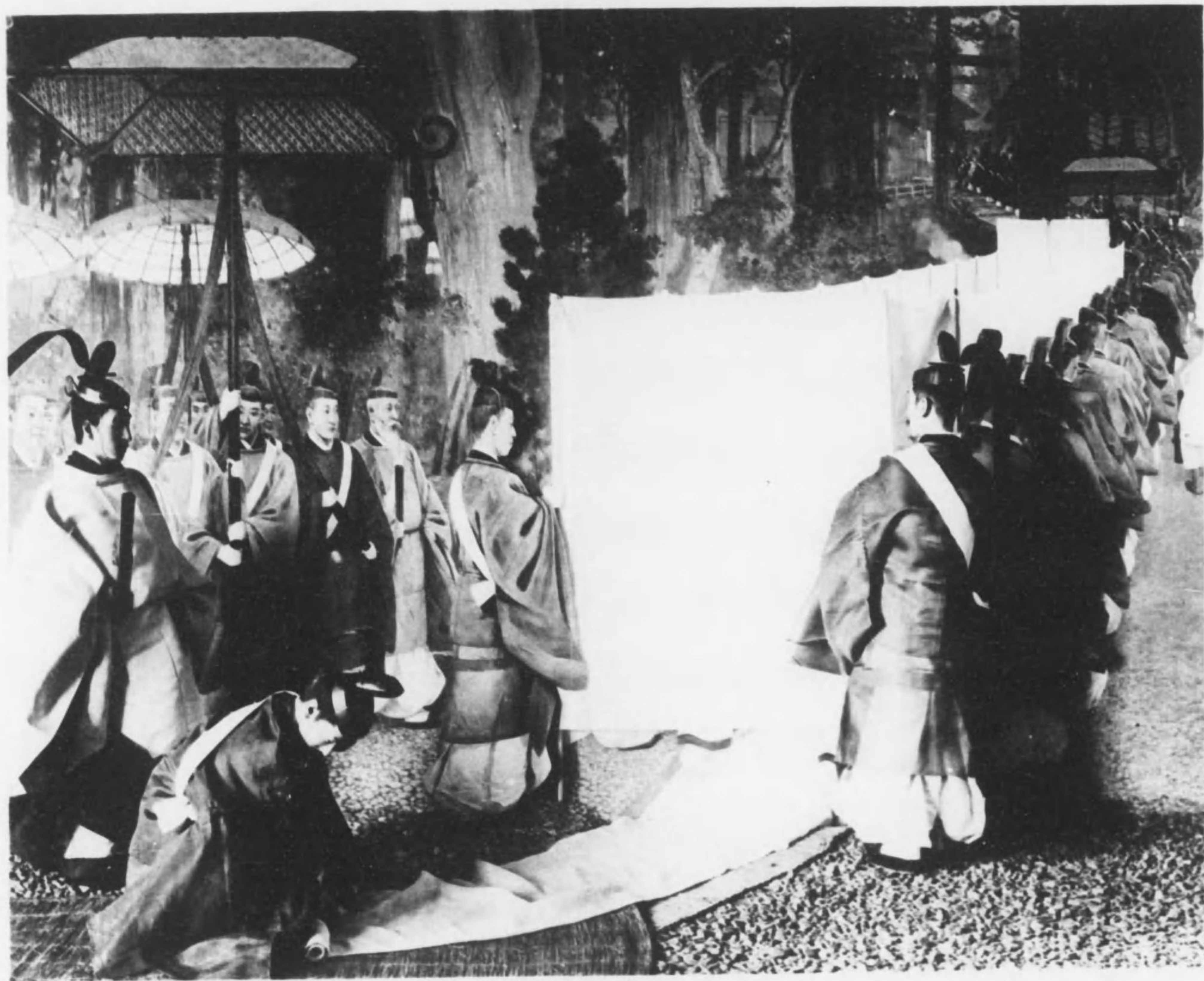




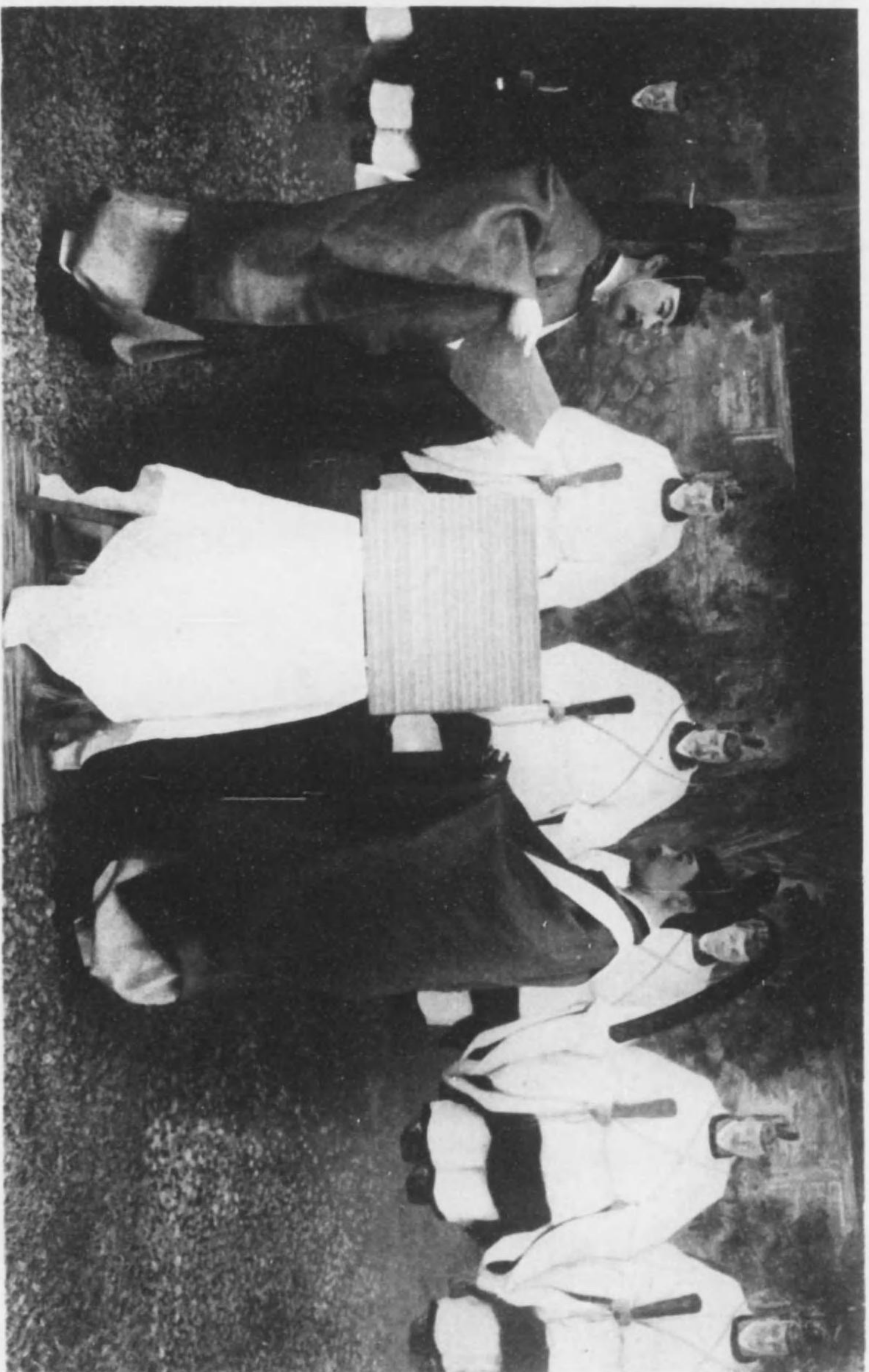
御選官幣點檢之圖



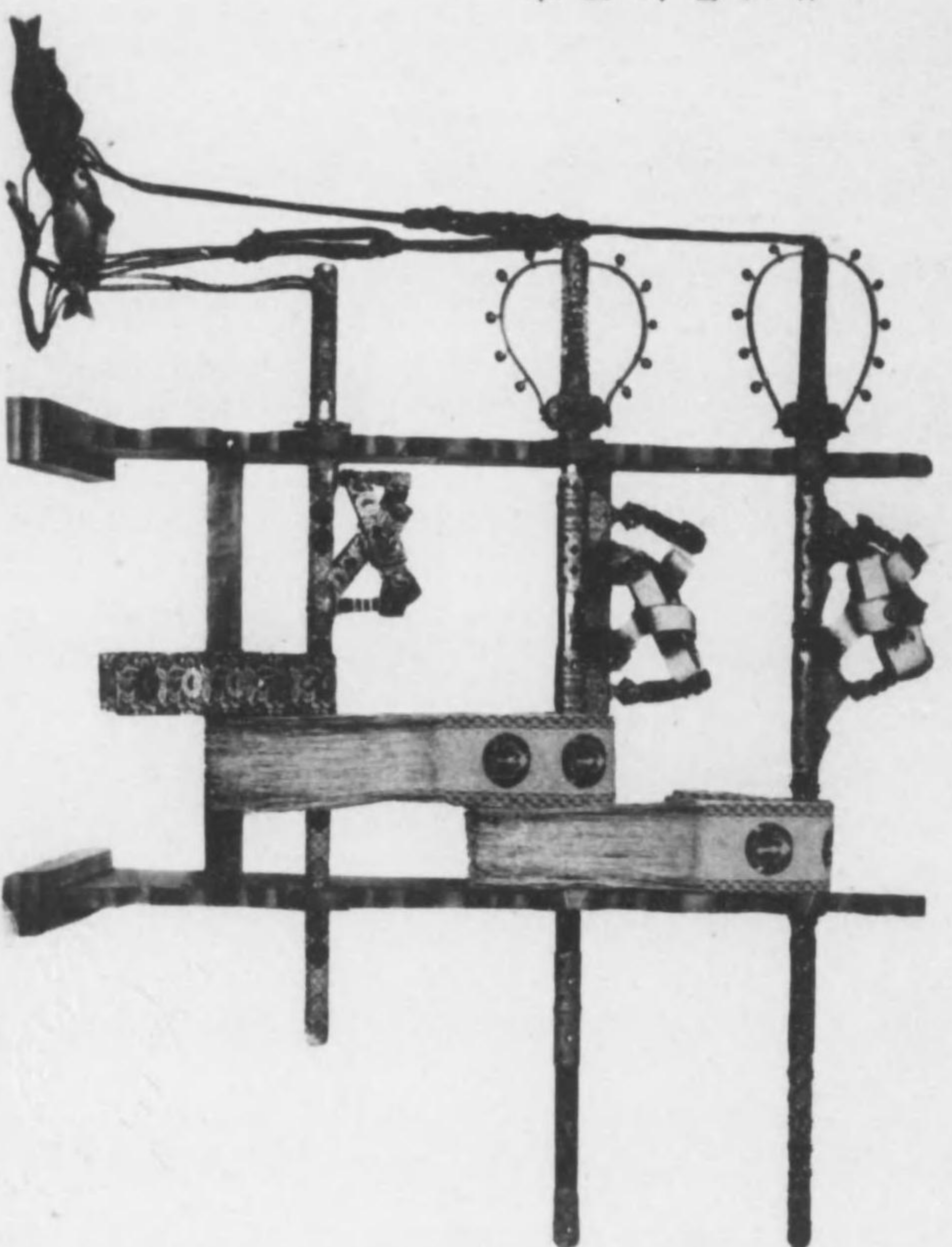
(第五室) 御選官幣點檢之圖



(室五第) 圖之式御遷宮神大皇



御遷宮幣帛檢點之圖 (第五室)



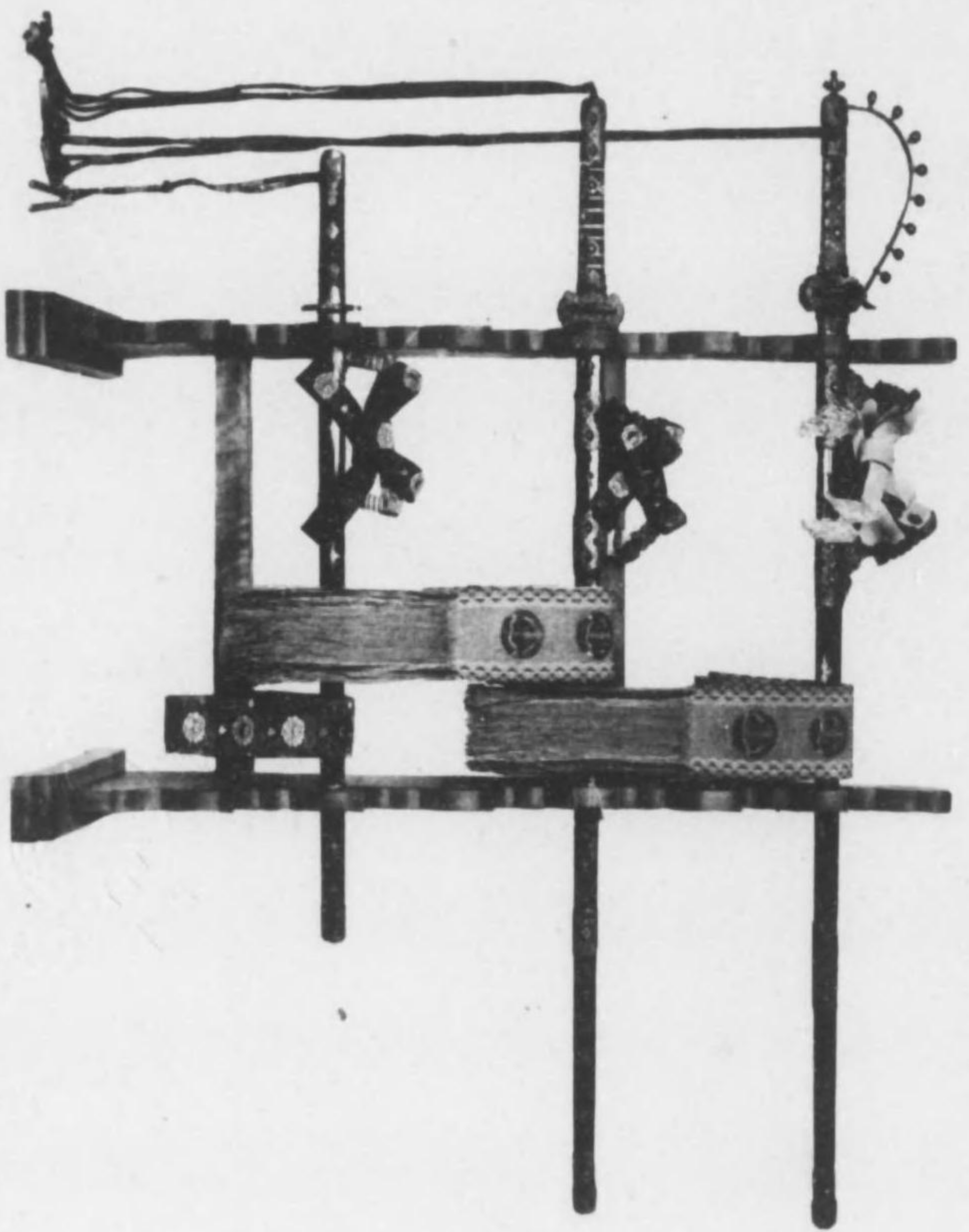
皇大神宮御料

玉纏御太刀

須加利御太刀

金銅造御太刀

(第九室)



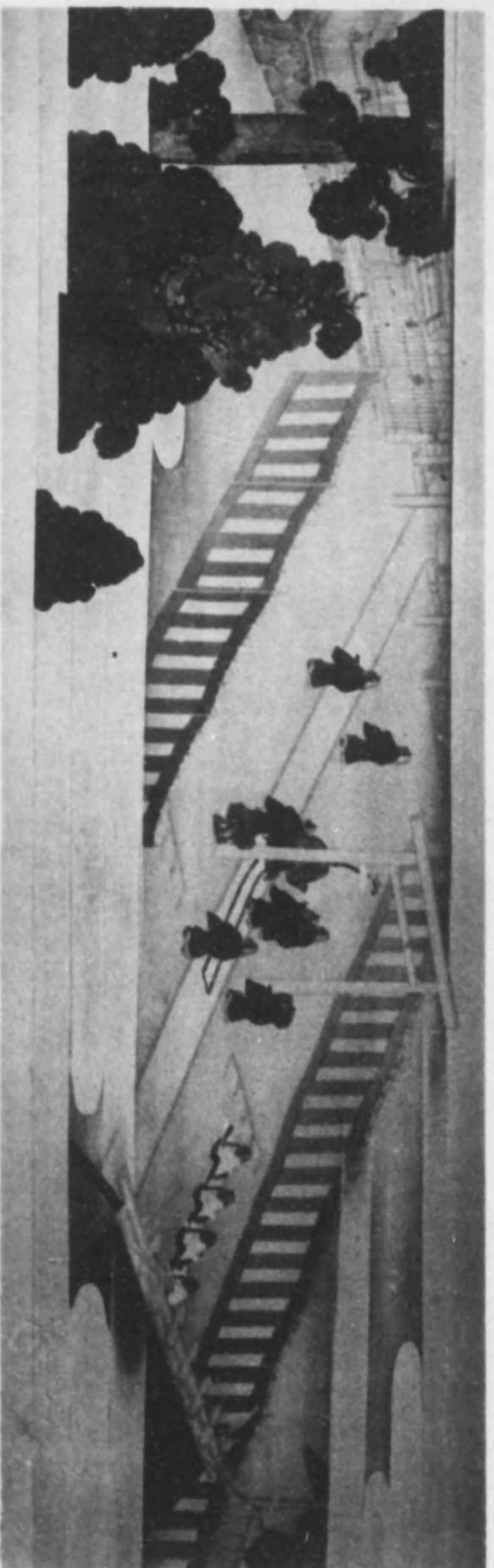
豐受大神宮御料

第一御太刀

第二御太刀

第三御太刀

(第九室)



(室七第) 圖之拜參御宮內 卷繪幸行勢伊年二治明



料御皇天治明
(室三第)〔冬〕袍御染櫛黄



(室四第) 面の王陵蘭と面の徳貴

徵古館ハモト神苑會ノ事業トシテ神苑ト共ニ計畫セラレタルモノニシテ、始メ歴史博物館ト稱シ、明治二十六年十月二月外宮附近ナル農業館構内ニ附屬館ヲ建設シ、三重縣寄贈ノ工藝品並ニ徵古ニ資スヘキ物品ヲ陳列シテ公衆ニ觀覽セシム。是ヲ徵古館ノ前身トス。同二十七年十月農業館附屬館ニ陳列シタル物品ヲ、曩ニ迎賓ノ用ニ建設セシニ見浦賓日館ニ移シ、假徵古館トシテ公衆ノ觀覽ニ供ス。

同三十六年六月神苑會ノ事業トシテ、倉田山ニ撤下御物陳列所ヲ建設シ、之ヲ神宮ニ獻納ス。神宮司廳ニ於テハ、撤下ノ御裝束、神寶ノ一部ヲ陳列シ、公衆ノ拜觀ヲ許セリ。

同三十八年六月倉田山ノ倉庫ニ假徵古館ヲ移シ、公衆ニ觀覽セシムルト共ニ、三十七年度ヨリ四ヶ年ノ繼續事業トシテ、豫算額二十萬八千九百九十三圓ヲ以テ本館ノ建設ヲ計畫シ、工學博士片山東熊氏ノ設計ニヨリ二年有半ヲ經テ四十二年五月落成ス。其ノ様式ハ「ルネサンス」式平家建ニシテ、前面ノ長百九十四尺、側面ノ長百四十六尺六寸坪數三百三坪、即現今巍然トシテ倉田山ニ屹立セル徵古館是ナリ。此ニ於テ理學博士坪井正五郎・帝室博物館學藝委員高橋健自・同關係之助ニ委囑シテ物品陳列ノ事ニ當ラシメ、超エテ九月二十九日開館ノ式ヲ行フ。總裁有栖川宮威仁親王特ニ別當平山成信ヲ御差遣セラレ令旨ヲ賜ヒ、徵古館ノ竣成ヲ喜バセ給フ。

同四十四年四月徵古館農業館及土地建物陳列品其他一切ノ物件ヲ神宮ニ獻納シ、是ヨリ徵古館農業館ノ經營ハ神宮司廳ニ移レリ。尋テ大正元年三月撤下御裝束神寶陳列所ヲ廢シ、御裝束神寶及寶物ヲ徵古館ニ移ス。是ヨリ館ノ事業次第ニ整頓シ、神宮關係徵古資料タル陳列品ヲ中心ニ、我國固有文化ノ發達ヲ徵スル博物館トシテ特色ヲ示シ今日ニ及ベリ。

現今當館ニ於ケル陳列品ハ三千三百餘點、之ニ寄託品五百餘點ヲ加ヘ、合計三千九百餘點ヲ算フルニ至レリ。

凡例

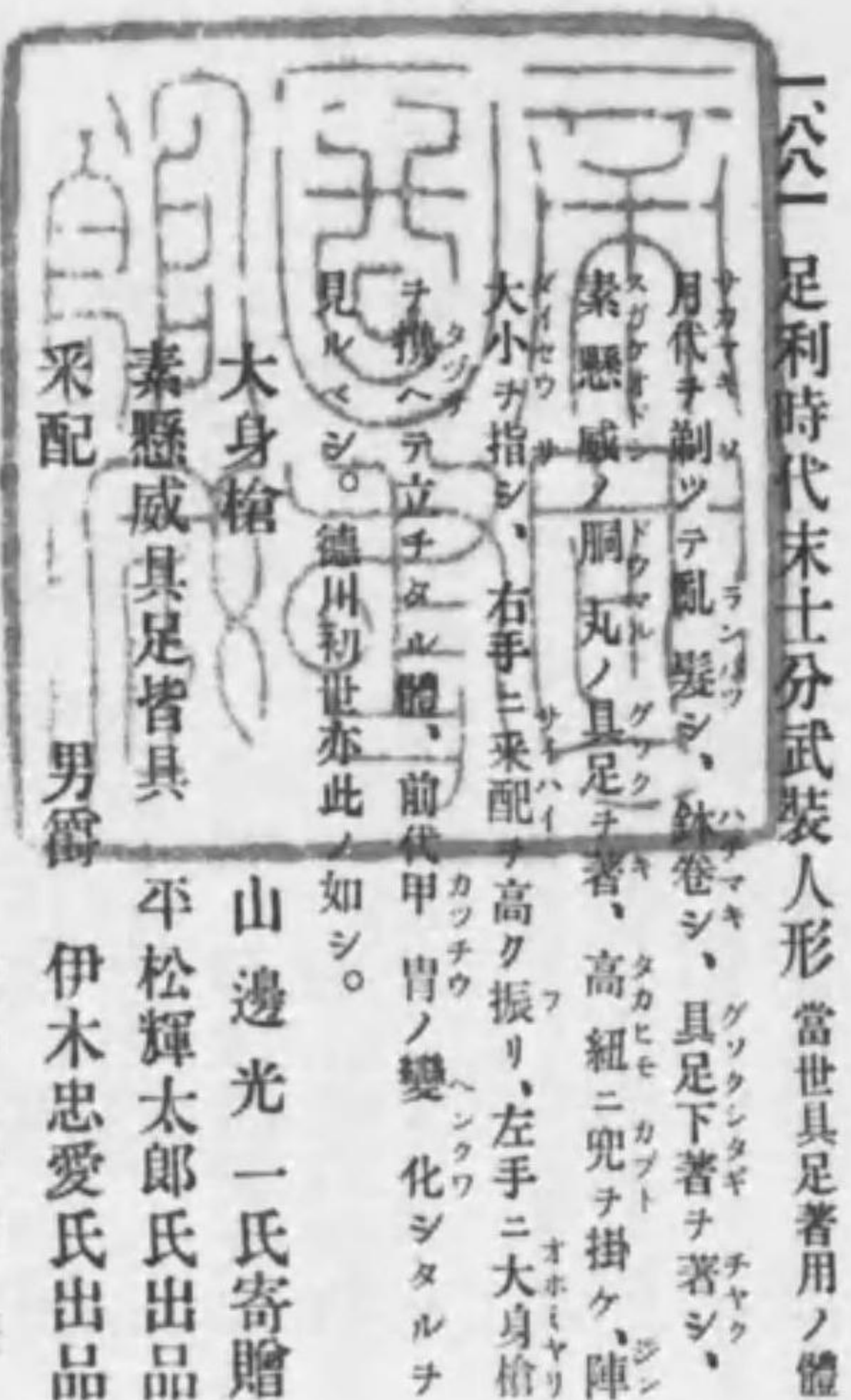
- 一、本編ハ徵古館陳列品ノ重ナルモノヲ輯録シ、之ニ略解説ヲ加ヘタルモノナリ。
- 二、本編ハ陳列品觀覽ノ便ニ資センガ爲、上欄ヲ往路、下欄ヲ歸路ニ配當記載セリ。從ツテ一室ニ於ケル分類其ノ當ヲ得ズ。
- 三、本館所藏ノ陳列品ハ館ノ狹隘ノ爲、一時ニ陳列シ得ザルヲ以テ、便宜時々陳列替ヲ行フ。本編中○印ヲ以テ表ハシタルモノハ陳列替ノ參考トシタルモノナリ。

陳列排置

- 第一室 風俗人形・武器 一頁
- 第二室 風俗人形・武器・馬具 三頁
- 第三室 明治天皇御料・祭祀御料・風俗人形・服飾 二頁
- 第四室 服飾・家什・調度・文房具・樂器・遊戲具・度量衡・貨幣 二五頁
- 第五室 神宮撤下御物・遷宮關係資料・船舶 四頁
- 第六室 古文書・畫圖・典籍・上古其
他遺物・神都史料・海運史料 五頁
- 第七室 神宮諸祭畫圖・御師關係資料 七頁
- 第八室 神宮御寶物・撤下御物・神宮
祭祀器具 八頁
- 第九室 神宮撤下御物 九頁

徵古館陳列品略解

第一室 風俗人形・武器



一八六一 足利時代末士分武装人形 當世具足着用ノ體
 月代手制ツテ風髪シ、鉢巻シ、具足下著ナ著シ、
 素懸威ノ胴瓦ノ具足ナ著、高紐ニ兜ヲ掛ケ、陣
 大小ヲ指シ、右手ニ來配ノ高ク振り、左手ニ大身槍
 オ携ヘテ立チタレ體、前代甲冑ノ變、化シタルヲ
 見ルベシ。徳川初世亦此ノ如シ。

木身槍 山邊光一氏寄贈
 素懸威具足皆具 平松輝太郎氏出品
 采配 男爵 伊木忠愛氏出品

一八八〇 鎌倉時代將士武装人形 胴丸ノ鏡着用ノ體
 引立烏帽子ニ鉢巻シ、織物ノ鏡直垂ニ腰巾シテ
 括ヲ入レ、襪ヲ差シ、片籠手ヲ著ケ、熊皮ノ貫

- 二五九三 薙刀 二本 多村知常氏寄贈
- 二五九四 直槍 一本 芝山米吉氏出品
- 二六〇〇 薙刀 一本 廣瀬忠三郎氏出品
- 二六〇一 薙刀 一本 橋村正榮氏出品
- 二六〇二 薙刀 一本 小林堅太郎氏出品
- 二六〇三 薙刀 一本 杉原光雄氏出品
- 二六〇四 薙刀 一本 福島正則ノ臣杉原馬之助所用。
- 二六〇五 薙刀 一本
- 二六〇六 薙刀 一本 御巫清白氏出品
- 二六〇七 薙刀 一本 石谷峻三氏出品
- 二六〇八 薙刀 一本 廣瀬忠三郎氏出品
- 二六〇九 薙刀 一本 光明寺出品

第一室

第一室

チ穿キ、杏葉付ケタル胴丸ヲ著シ、大織形ニ
獅子ノ前立ヲ佩キ、柄巻キタル腰刀ヲ差シ、
征矢ノ中差ニ鳴鑼矢ノ表差シタル逆頼殿ヲ負ヒ
二所ノ鏝ノ弓ヲ握リ、扇ヲ把リテ胡床ニ踞シテ
懇ヒタル體、足利中世將士概如此

胴丸皆具 男爵 伊木忠愛氏出品
御巫清白氏出品

一八九 鎌倉時代貴族童人形 牛尻ヲ著シ遊戯ノ體

髪ヲ高ク上ゲテ、モトユヒニ結ビ、濃色ノ單ニ箔ヲ
ダミタルヲ著シ、袴、半尻ヲ著、懸守ヲ掛ケ、
淺沓ヲ穿キ、手ニ穂杖ヲ持テ、ぶり／＼チ打タ
ントスル體、古代ノ遊戯ノ今日ニ類スルモノアリ
シヲ示ス。

一八八 中古賤夫人形

主人ナドノ調度ヲ擔ヒテ旅行ス
折烏帽子ニ小結シ、搦染ノ布直垂ニ四布袴ヲ
著、菱腰巾ヲ著ケ、燈袋ヲ付ケ、見世懸掛ケ

一八七 柳生杖 一本 秋田彌吉郎氏出品

荒木又右衛門吉村所用、竹製、中心ニ金棒ヲ仕込ム。
柳生飛騨守ヨリ荒木又右衛門ニ贈ラレシ杖ナルヲ
以テ此ノ稱アリ。始メ又右衛門ヨリ舊津藩藤堂家
老職藤堂歸雲ニ傳ハリ、同家ノ珍藏スルトコロタ
リシヲ、明治十五年孟夏ノ頃、秋田嘉有(彌吉郎氏
ノ實兄)ノ懇望止ミ難キニヨリ、同家ニ讓與セ
ラレタルモノナリ。

一八六 鳥毛陣羽織 一領 山村清子氏寄贈

秋田家ハ伊勢國長野村分部城主分部若狭ノ後裔ニ
シテ、現彌吉郎氏迄十三代連綿タル家柄ナリ。
肩翡翠、腰翡翠、雉子交張、紋重扇白羽、襟赤地
銀入錦、袖口黒赤ケシ付、胸紐鼠色羅紗

第一室

二

- 二七 薙刀 一本 芝山米吉氏出品
- 二八 薙刀 一本 松田健壽氏出品
- 二九 十文字槍 一本 廣瀬忠三郎氏出品
- 三〇 鉤槍 一本 同 上
- 三一 鉤槍 一本 芝山米吉氏出品
- 三二 十字槍 一本 多村知常氏寄贈
- 三三 鉤槍 一本 石谷峻三氏出品
- 三四 鉤槍 一本 同 上
- 三五 鉤槍 一本 同 上
- 三六 在銘下坂作
- 三七 在銘兼常
- 三八 福島正則ノ臣杉原馬之助所用
- 三九 一本 杉原光雄氏出品
- 四〇 一本 多村知常氏寄贈
- 四一 一本 同 上
- 四二 一本 光明寺 出品

七五 槍 一本 大江龍瑞氏寄贈

一四七 槍 一本 藤堂信子氏出品

一四八 重藤弓 一張 三日月市大夫次郎氏寄贈

一四九 二所藤弓 一張 豊永 修氏出品

一五〇 鞆 (正倉院) 一枚

鞆ハ革ニテ作り、内チ空シクシテ彈力アラシメ、左
臂ニ著ケ、弦ノ手玉・劍等ニ觸ル、チ防グ。又
一説ニハ木弓ニ之ヲ用ヒテ矢ノ勢ヲ助グト云フ。
上古風俗人形ニ著ク

三

第一室

陣羽織ハ足利時代末ニ具足羽織ト稱セシモノニシテ、陣中小具足ノミノ時、着用セシモノナレド、後ニハ甲冑ノ上ニモ用ヒタリ。

三四六

法螺貝

陣貝ト稱シ、軍陣ニ吹キテ士卒ノ進退ヲ示スニ用ヒタリ。又佛家ニテハ之ヲ吹ケバ、惡魔ヲ降伏シ、怨敵退散スト云ヒ、殊ニ修驗ノ行者ニハ最も必要ナル道具ノ一ナリ。

三〇〇一

物射杵

一足
騎射又ハ騎射旅行用

一〇六

獅子石火矢

一門 藤堂信子氏出品
目方六貫二百五十匁

傳慶長二年藤堂仁右衛門高利朝 鮮ニ於テ分捕。

二七〇

陣羽織

一領
傳將軍德川吉宗鷹狩ノ時着用。

七三

口藥入

德川時代末 今村又四郎氏寄贈

七二

陣笠

德川時代 一蓋 石谷齋藏氏寄贈
鐵十二枚張、裏朱、紐白。

傳安政中山田奉行山口丹波守所用。

陣笠ハ武士ノ平時馬上ニ用ヒタルモノ、又近世足輕・仲間等、戰爭ニ用ヒタリ。

七四

陣笠

德川時代末 一蓋 大江龍瑞氏寄贈
總黑塗裏銀ニテ鷹ノ羽ト三巴ノ紋アリ。

七三

陣笠

德川時代末 一蓋 石谷齋藏氏寄贈
黃漆銀紋付、裏黑塗紐ナシ。

小林奉行所組中所用。

三三

綾蘭笠

(模造) 一蓋
綾蘭笠ハモト旅行・狩獵等ニ用ヒタルモノ、原品ハ奈良手向山神社藏ニシテ、モト田樂用ノモノニ依リ、德川時代ニ模造シテ流鏑馬ニ用ヒタルモノナリ。

第一室

七三

矢筒

德川時代 一個 松木光彦氏寄贈
的矢ヲ入ル、モノ。

二六九

蒔繪空穗

一腰 山村清子氏寄贈
矢ノ雨ニ濡レ、物ニ觸レテ損ズルヲ防ガタメ、盛りテ背ニ負フ具。

七六

白猪空穗

德川時代 一腰
狩獵又ハ旅行等ニ、箭ヲ損セザランガタメニ用ヒシモノニシテ、足利時代ニハ騎馬ノ人ノ專ラ平時ニ用ヒシモノナリ。

八〇

征矢

十二本
軍陣式正ノ籠ニ用フ。

尖ニハ尖矢・鳴鑼矢・一手神頭・數神頭・矢代神頭・角木・野差矢・差矢・繰矢・的矢・眞犬射引目・産所引目・征矢・野矢等アリ。

八三

猪逆頰籠

一腰
猪毛皮ノ毛列ヲ逆様ニ張りシ故ニ此名アリ。式正ノモノナリ。

八〇

鳴鑼矢

一本
カフラヤ

八四

征矢

二十二本
軍陣ニ用フルモノ

七四

打根

德川時代末 村井與四郎氏寄贈

二九九 鹿夏毛行膝 一具
流鏑馬其他騎馬旅行用。

七六四 陣笠 明治二年製 一蓋 小林吉鎮氏寄贈

一〇三 陣羽織 徳川時代末一領 平松輝太郎氏出品
縹色羅紗、襟薄紫地金襴、裏白散綾子、紐瓢箪形
白五ツ菰ノ紋。

七五七 鐵砲 一挺 川島米太郎氏寄贈
度會縣ノ檢印アリ。

七六六 小筒 一挺 山本義正氏寄贈
天保頃ノ火繩筒。

一七四 稻富一夢鐵砲 一挺
稲富一夢在銘

銀象嵌ニテ「一ある目あてをふらでみふ人の志
さろもさろよはふす鐵砲」
眞鍮ニテ「一夢判」トアリ、一夢ハ豊臣時代ノ有
名ナル銃手ニシテ、稲富流ノ祖ナリ。

一五二 鐵砲 三挺

金銀布目裏嵌皮、銘ハ後世施シタルモノ。

三〇〇 火繩挾 火繩添 一個
大砲發射用。

七五 程々緋鐵砲袋 徳川時代末 二一條
子爵 稻垣長昌氏寄贈

舊鳥羽藩主稻垣家、神宮御警固ノ時用ヒタルモノ
ナリトイフ。

一、七三 總青貝長柄槍 二本 高松勝重氏出品

槍ハ古代ノ銚ノ變化シタルモノニシテ、源平時代
ニハ手銚行ハレ、後ニハ手銚モ廢レテ、遂ニ一種之
ニ類スルモノヲ造リ出シ、遠クニ突キ遣ルヨリ銚ト
名ヅケタルモノニシテ、南北朝時代ヨリ書中ニ見エ
爾來多年ノ研究ヲ積ミテ種々ノ變形ヲ生ジタリ。

徳川時代ニ尻籠ニ入レ、又ハ駕籠ノ内座右等ニ置
キテ不慮ニ備ヘシモノ

八二 柳 箆 腰紐缺 (熱田神宮寶物模造)

箆ハ矢ヲ盛リテ背ニ負フ器、平胡録ヨリ轉シタ
ルモノ、其ノ制ニヨリテ逆頼箆・竹箆・葛箆・
革箆・柳箆・指箆等ノ名アリ。

八〇 指箆 腰紐缺 一腰

九二 決拾 一個 御巫清白氏出品
四掛(藤原時代ノ模造)

弓ヲ射ルトキ、手指ヲ傷メザル爲ニ用フル手袋ニ
シテ、碟又ハ射決ト書ス。

一、九〇 鐵 二本 井村爲藏氏寄贈

七〇 鐵 三本 大阪毎日新聞
參宮團體寄贈

七六 鐵 二本 土屋孫三郎氏寄贈
銘スケケミチ 徳川時代末

二、五 鐵 二段透雁股 徳川時代

二、五九 鐵 大雁股 豊臣時代

二、六〇 鐵 三角透平根 足利時代

二、六二 鐵 平根脇挾 銘重貞 徳川時代

二、六三 鐵 重猪目透三角形平根 足利時代末

二、六四 鐵 猪目權形根 徳川時代

二、六五 鐵 十字透平根 徳川時代

八〇七 野矢 九本

八〇六 尖矢 一本

七九八 線矢 一本

七九六 差矢 一手

堂矢トモ云フ。三十三間堂ノ通シ矢ニ用フルモノ。

七九二 一手神頭 一手

小笠原流所用、ブリ／＼ヲ射ルニ用フ。

七九三 數神頭 一本

一、三三 總青貝柄鉤槍 一本 同 上

一、二七 總青貝柄薙刀 一本 同 上

高松内匠所用。

薙刀ノ起原ハ詳カナラザレドモ、奥州後三年記ニ其ノ名見ユ。源平時代戰場ニ用ヒタルコト諸書ニ見エタリ。元龜・天正以後ニ至リテハ、主トシテ僧侶・婦人ノ用トナリ、徳川時代ニハ特ニ婦人ノ武具トナレリ。

三三 直槍 二本 廣瀬忠三郎氏出品

三七 片鎌槍 一本 松木光彦氏寄贈

二六 手槍 在銘喜近 一本 芝山米吉氏出品

二五 大身 一本 同 上

三三 手槍 二本 廣瀬忠三郎氏出品

三五 大身槍 二本 杉原光雄氏出品

小笠原流草鹿等ヲ射ルニ用フ。

七五 矢代神頭 一本

小笠原流矢代ヲ振ルニ用フ。

七四 角木 一手

小笠原流巻藁ヲ射ルニ用フ。

七五 尖矢 一本

七六 野差矢 一本

野ニテ差矢ノ稽古ヲナスニ用フ。

七七 野差矢 一本

七三 尖矢 徳川時代 二筋 土屋孫三郎氏寄贈

一、八五 矢 (原品奈良時代模造) 一雙

八四 鳴鏑矢 一本

八五 征矢 九本

八〇 的矢 小笠原流 一本

八二 眞犬射引目 一本

大迫物ニ用フ。

八三 産所引目 一本

出産ノ時用フ。

七〇 鳴鏑矢 一本

一、八七 藤原時代以來女官正裝人形

世二十二一重ト稱スルモノ、

髪上ゲシテ平額ヲ著ケ、釵子及ビ櫛ヲ挿ス。是ヲ寶ケイ、髻ト稱ス。袴ヲ穿キ、單・五衣・表衣・唐衣・裳ヲ著シ、帖紙ヲ懷。中シ、手ニ槍扇ヲ把リ、騎シテ歩マントスル體。

一、八六 藤原時代以來文官人形

五位束帶前代ノ風ノ變化セシヲ示ス。

垂纒冠・單・大口袴・表・裏・下・カサネ・緋・袍・著シ、石帶ニテ束ネ、魚袋ヲ佩ビ、帖紙・槍扇ヲ懷。中シ、笏ヲ把リ、淺沓ヲ著

福島正則ノ臣、杉原馬之助所用。

七四 鉾形槍 一本 奥田宗三郎氏寄贈

三三 槍 一本 同

九四 旗 (模造) 一旒

原品ハ石清水八幡宮舊藏、源義家所用ト稱スルモノ、模造ニシテ、旗竿ハ足利時代ノ式ニ據ル。

一、八三 槍 一本 喜多親之氏寄贈

一五九 槍 一本 豊永 修氏出品

二、九六 糸纏鉾 (正倉院御物模造) 一本

二、五九 袖搦 一本 多村知常氏寄贈

二、一六 袖搦 一本 三田市大夫次郎氏寄贈

二、一七 突棒 一本 同 上

突棒ハ刺又及袖搦ト合セテ之ヲ三ツ道具ト稱ス。徳川時代ニ人ヲ捕フルニ用ヒタル武器ナリ。突棒ハ

第一室

其頭撞木トモイフ。刺又ハ其ノ頭琴柱^{コトゾ}棒^{ボウ}マタク
ビガレノ名アリ、袖搦ハ其ノ名ノ如ク、袖ヲ搦ムモ
ノニシテ、又振トモイフ。

一六 袖搦 一本 宇仁田仁兵衛氏出品

一七 三鍬形馬印 一本

馬印ハ主將ノ馬側ニ樹テ其ノ居所ヲ示ス標ニシ
テ、足利時代ノ中頃ヨリ用ヒタリ。

一八 振杖 一本 辻喜代造氏寄贈

棒ノ先キニ分銅及鍬ヲ着ケ、人ヲ捕フルニ用ヒシ
寄道具ノ一ナリ。

ケテ歩マントスル體。冠・服ヨリ帶・魚袋等ノ形
ノ變化セシテ見ルベシ。

石帶紐欠 無紋蠟石巡方丸轆打交

三日市大夫次郎氏寄贈

銀魚帶 白鮫色紫皮組 松木しげ子氏寄贈

一八五 奈良時代文官人形 五位東帶ノ體

クリノウスモノガウムリ、ウスアケノワヘノキヌ、シロノハカマ
皂羅頭巾・淺緋袍・白袴・
半臂ヲ著ケ、銀裝革帶ヲ結ビ、白襪
ニ烏皮履ヲ穿キ、淺緋袋ヲ佩ビ、牙笏ヲ
把リテ立ツ。文官朝參ノ體ヲ示ス。

鳥羅頭巾ハ古神像及正倉院御物ニ據ル。

袍袴・半臂・襪・履・牙笏ハ正倉院御物及東大寺
古物ヲ據ス。

淺緋袋ハ後世ノ魚袋ノ形及年中行事ノ畫ニ據ル。

但シ袍ハ當時猶無紋ノ純ノ制ナレドモ、今有ル
ニ隨テ有紋ヲ用ヒシモ、コハ稍後世ノ風ナリ。

一八三 上古男子人形 弓弭ノ調ヲ據ント

テ、獵ニ出立ツ體

一八四 上古女子人形

麻ヲ績ギテ袴ニ懸ケ手末ノ調ヲ
作ル體

髮ヲ束ネ額^{カミ}櫛ヲ挿シ耳輪^{ミミ}・頸玉^{クビタマ}等ヲ懸ケ、手ニ
ハ手玉ヲ著ケ、衣^{キヌ}禪^ノヲ著シ、裳^{マト}ヲ纏ヒ、領巾^{ヒレ}ヲ懸
ケ、麻笥^{ウヰ}ニ績麻ヲ容レテ袴ニ卷ク。

髮・額櫛・手玉・衣等埴輪土偶ニ據ル。

裳ハ正倉院御物及朝鮮ノ古物等ニ據ル。領巾ハ
埴輪土偶及古神像延喜式等ヲ參考シテ造ル。袴
ハ伊勢神宮神寶及熊野新宮神寶等ニ據ル。

髮ヲ美豆羅^{カミミヅラ}ニ結ビ、櫛^{ケシ}ヲ挿シ、耳ニ耳輪^{ミミ}ヲ懸ケ、
頸ニ勾玉^{マカタマ}・管玉^{ツグタマ}・丸玉^{マリタマ}・切小玉^{キリココマ}等ノ頸玉^{クビタマ}ヲ懸
ケ、手首ニ鈴^{スズ}・銅^{ドウ}ヲ著ケ、衣^{キヌ}ヲ左袵^{ヒダリ}ニ著シ、禪^{ハカマ}ニ
ハ小鈴^{コスズ}ヲ著ケタル足結^{アユヒ}ヲ爲シ、襪^{ハカ}ヲ穿キテ沓^{クツ}ヲ著
ケ、腰ニハ頭櫛^{カフツチ}ノ劍^{ケン}ヲ懸テ佩^ハキ、葛^{ツヅ}・靱^ヒニ
野矢^{ノヤ}ヲ盛リタルヲ負ヒ、左腕^{ヒダリ}ニハ弦^{ユヅル}ノ劍^{ケン}ニ觸ル、
ヲ防^{フセ}グ爲メニ鞆^{トモ}ヲ著ケ、丸木弓^{マキ}ヲ把ル。

美豆羅・衣・禪・沓・足結・頸玉・劍等ハ埴輪土偶

若クハ古墳發見品ニ據ル。

櫛ハ周防國發見、竹製品ヲ據ス。

頭櫛・劍・繼帶ハ正倉院御物ヲ據ス。野矢モ同シ。

葛靱ハ大安寺舊藏、神功皇后御物ヲ據ス。鞆ハ

御巫清白氏出品ヲ應用ス。頸玉ハ悉ク古墳發見
ノ實物ナリ。

第一室

第二室 風俗人形・武器・馬具

二〇五 大名行列 徳川時代 一組

大行 徳川時代 一組
舊山口藩 主毛利侯ノ參觀 交替ノ道 中 行列
ヲ模シタルモノナリ。

二〇六 木村重成威狀 二幅 附、永樂錢二枚一分判三枚

二〇七 陣羽織 一着 高松重遠着用

以上 高松勝重氏出品

二〇八 刀筒 黒塗金蒔繪紋十六菊左二ツ巴 一本

二〇九 刀筒 黒石地塗 徳川時代 一本

石谷峻三氏出品

二一〇 飾馬圖 唐鞍・移鞍・鏡鞍・衝繩 一卷

水干鞍ノ五圖ヲ收ム

二一一 馬甲 徳川時代中 一組

奥田宗三郎氏寄贈

革製金箔押小方形丸縁黒革裏柿麻胸當二枚 但尻及面ヲ缺ク

古ハ具装ト稱シ、其後中絶シ、南北朝ノ頃ヨリ又行ハレタリ。戰爭ノ時乘馬ニ掛ク。

二一二 馬甲 面缺ク 徳川時代中 一組

奥田宗三郎氏寄贈

革製金箔置方形小札裡地五郎丸染胸板二枚

二一三 佐藤繼信鞍 折紙添 一脊

高松勝重氏出品

源平屋島ノ合戦ニ義經ノ身替ニナリ、能登守教經ノ矢面ニ立チテ討死シタル佐藤繼信ノ追善供養ノタメ、特ニ義經ガ名馬大夫黒(薄墨)ニ置カ

二一四 銀象嵌四枚胴具足 皆具 徳川時代中 一領

二一五 縹匂威腹巻 皆具 徳川時代 一領

二一六 藤原秀郷太刀 (毛拔形太刀) 無銘長二尺四寸又文直又

藤原時代武官所用ノ太刀ニシテ、莖ハ直ニ柄ノ形ニ成シ、毛拔形ヲ透シタレバ、毛拔形ノ太刀トモ稱シ、衛府ノ用ヒシモノナレバ、マタ衛府太刀トモ稱セリ。本品ハ此ノ種ノ最モ古キモノニシテ、實ニ稱世ノ珍ナリトス。柄ノ佩表毛拔形覆輪ニ鐵疵アリテ、實際戰闘ニ用ヒラレシヲ見ルニ足ル。但一ノ足ト纏ノ渡巻トハ、足利時代末ノ補足ニシ

テ、古ハ渡巻ナカリシモノナリ。

此ノ太刀ノ由來ヲ温メルニ、秀郷ノ子孫肥前守某左京大夫國虎等伊勢國三重郡赤堀村ニ來リテ住メリ。赤堀ハ元栗原ト稱セシガ、下野國赤堀ニ住ミシ人々ナル故、栗原ト改メテ赤堀ト名付ケタリ。栗原ハ秀郷ノ莊ニ關ナリキ。後此ノ太刀ヲ山田ノ御師深井平太夫ヘ奉納シ、同家ニ傳ヘシテ、足代勝大夫荒木田・度會ノ兩神主ニ譲リ讓リ受ケ、寛政五年十二月豊宮崎文庫ニ奉納セリ。

二一七 藤原秀郷朝臣佩刀考證 足代弘訓自筆

一冊 瀬尾吉重氏出品

二一八 短刀 拵付 銘武州住康重作天正八年戊辰六月日

長六寸二分表裏背素劍彫 藤堂信子氏出品

セ、屋島寺ニ寄進シタル躑躅ノ鞍ニシテ、其後同寺ノ住職ヨリ讚岐ノ城主タリシ高松氏ノ祖公ニ獻上セシ以來、同家ノ家寶トナリシモノト傳フ。即チ集古十種所載ノモノ是ナリ。

1,600 壺 鐵製 藤原時代 一隻

傳云、奈良手向山神社舊藏

1,101 壺 鐵製 藤原時代 一隻

傳云、肥後熊本藩木原盾臣舊藏、唐草透彫金象嵌概ネ脱落、壺蓋ノ現存セルモノ、中本品ノ如キ精巧ナルハ稀ニ見ルトコロナリ。

3,000 章張燈 鎌倉時代 一隻

1,577 移鞍 鎌倉時代 一脊

神ニ進メタル牽馬チ、直チニ乘尻ニ移ス時、置ク鞍ナレバ移鞍ト云ヒ、又馬寮ノ移文ニヨリテ、出ス馬ニ置ク鞍ナレバ此名アリトモ云フ。

3,008 鞍皆具 徳川時代

鞍・鎧・押掛・四方手・衝・立間・三尺革・チカラ革・泥障・泥障組・切付・馬氈・板馬氈
鞍銘 慶安二年三月日花押 伊勢因幡守貞俊
衝銘 市口兵庫 藤原義貞

1,509 酸漿轡 足利時代末 一個

1,512 軍陣鞍 足利時代 一脊

軍陣鞍ハ軍陣ニ用ヒタルモノニシテ、前輪高ク、鞍壺深ク、其ノ式後世ノ大坪流ノモノニ存セリ。

2,175 口籠 銅線製 一個 奥田宗三郎氏寄贈

牽馬ノ口ニ施ス具ナリ。

1,04 海無鞍 居木朱塗金時繪 一脊

平松輝太郎氏出品

文安三年七月十八日因幡守貞仲作、享保十一年十一月十六日伊勢貞方花押折紙添。

關ヶ原ノ戦ニ於テ、大谷吉隆ノ職將瀧淺五助佩用セシチ、藤堂高虎ノ臣同姓仁右衛門高利分捕セシモノ、高利時二十八才ナリキト云フ。

2,6 劔 在銘濃州西郡住壽命 長六寸八分 又文細直 又表裏一筋通アリ 光 明 寺出品

1,016 短刀 銘相州住廣次 長六寸六分五厘

傳北高具教卿寄進

法住院 山名義全氏出品

2,790 小柄屏風 山村清子氏寄贈

3,031 伊豫札桐丸 皆具 徳川時代 一領

3,011 皺草包二枚桐具足 皆具 徳川時代 一領

3,010 卯花威胴丸 皆具 徳川時代 一領

2,411 紺畦差足袋 徳川時代末

男爵 伊木忠愛氏出品

2,412 紺麻草鞋 徳川時代末 同 上

2,413 柳行李製腰付辨當 徳川時代 同 上

2,414 黒塗腰差水筒 徳川時代末 同 上

1,019 陣羽織 一着 藤堂信子氏出品

表裏錦背敷島ノ歌竝ニ櫻花ノ刺繡濃紫ノ房付前組金糸組赤銅葛紋藤堂仁右衛門高泰明治元年東征ノ際着用セシモノ

1,010 武者袴 表二重ドンス茶地ニ海岸秋草模様アリ、裏五日市

1,014 日の丸指物 一旒

1,015 指揮旗 一旒

1,016 白毛頭巾 一頭 藤堂信子氏出品

以上藤堂仁右衛門所用

1,171 豊公金突盆兜 面頬附屬

III. 鞍具 徳川時代 一春

鞍銘 貞享四年十月 日 花押
銜銘 市口兵部藤原正次

II. 鞭 徳川時代 一本 多村知常氏寄贈

IV. 源 義朝佩刀 (國寶)

伊勢朝熊岳 金剛證寺出品

伊勢國度會郡四郷村大字朝熊野間園彦ノ遠祖、宗祐ノ金剛證寺ニ寄附セシトコロナリ。宗祐ハ尾張國知多郡内海ノ人、本姓ハ鎌田、源 義朝ノ家臣政家ノ後裔ナリ。應永年間(一説明徳元年)同寺中興ノ開山佛地禪師ニ從ヒ來リ、遂ニ止リテ萬金丹藥舖ヲ開業シ今日ニ至ル。

II. 頭椎太刀 (模造)

武藏國埼玉郡小見村發掘 原品東京帝室博物館藏

頭椎トハ、柄頭ノ塊 狀チナシ、髓ノ如クナルヨリ起レル名稱ナリ。コハ我國固有ノ様式ニシテ、

シカモ最古ノ拵ナリトス。天孫降臨ノ時、天忍日命・天津久米命等ノ佩ビタルモ、コノ種ノ太刀ナリキ。

II. 短刀 銘國俊 長サ六寸四分又文細直又

II. 大笹穂槍身 無銘 穂長一尺一寸幅一寸八分 山村清子氏寄贈

II. 長劔 奉納大神宮嘉永己酉二月 日 仙臺住藤原玉秀 長一尺四寸五分又文直又

II. 十字槍身 銘美濃守藤原政常 又文直又

II. 印地槍身 無銘竹節形長節ヨリ上六寸七分 節ヨリ下七寸八分 足利時代 古印地打ノ争ニ用ヒタル故ニ此名アリト云フ。或ハ古代ノ鎧ノ一種ナランカ。

II. 槍身 銘宗近 長六寸九分又文細直又

II. 短刀 銘備前國住長船三衛門尉祐定長六寸九分 中村雄道氏出品

II. 小刀柄 一文字兼綱 長四寸又文細直又 井村爲藏氏寄贈

高松氏ノ祖憲重公、戦功ニヨリテ小西攝津守行長ヨリ拜領

高松勝重氏出品

II. 長鳥帽子形兜 一頭 子爵 稻垣長昌氏寄贈

箱書ニ曰ク、蒲生氏郷奥州ニ於テ、百萬石拜領 入部ノ時、暇乞ニ罷出候處、秀吉公ヨリ此ノ兜ヲ下賜セラレタリ。延寶五年六月二十九日云云

II. 鍍金長鍬形 獅子丸胴丸附屬 男爵 伊木忠愛氏出品

II. 鍍金獅子頭立 一個 同 上

II. 頬當 徳川時代 一面 同 上

II. 兜鉢 一頭 銀象嵌、後勝山三十二間筋巻込齋垣付、銀布目象嵌丁字唐草紋、角元付共眉庇、鞆ナシ、銘曰相州住久家振作判

住久家振作判

III. 笠袴兜 一頭 傳、楠氏一族河内恩地左近滿一所用

II. 兜鉢 一頭 銘曰永正十五年十二月吉日明珍 六十二間筋黒塗、前勝山、八幡座・眉庇・鞆等缺ク

II. 頬當 徳川時代 一面 石谷辻吉氏寄贈

II. 鉢金 鐵製 徳川時代末 一個 土屋孫三郎氏寄贈

II. 兵庫鎧太刀 國寶(嚴島神社寶物模造) 一振

II. 毛拔形太刀 紺地トシ織切平緒二筋添 一振 傳細川源藏人所用

II. 小田籠手 徳川時代 一具 男爵 伊木忠愛氏出品

II. 金襴家地瓦佩盾 徳川時代 一具 同 上

七〇 劔 無銘長五寸七分又文細直刃

石谷齋藏氏寄贈

八五 蕨手劔 原品 奈真時代正倉院御物二分ノ一ノ模造ナリ

七三 脇指身 銘奉納大神宮竹屋九藏嘉永二年正月日桑名住三品義明齋廣房作長一尺三寸又文丁字亂

七六 脇指身 銘井上眞改作延寶二年二月日長一尺二寸五分又文大灣表裏一筋樋中心ニ菊花ヲ刻ス

三六 脇指身 銘村正 長一尺二寸五分又文大亂 光明 寺出品

七九 脇指身 銘兼先長一尺六寸八分又文直刃

二八五 脇指身 銘武藏大棟藤原忠廣寛永八年二月吉日長一尺三寸四分又文大亂表裏薙刀樋アリ

二八七 短刀 銘奥大和守平朝臣元平文化十二亥八月長一尺一寸彫不動明王裏廣樋

子爵 稻垣長昌氏出品

一九三 脇指身 銘相州住廣正 長一尺六寸五分又文大亂表二筋樋裏一筋樋アリ

六〇 脇指身 銘名護屋住肥後守光代作長一尺八寸一分又文直刃

七四 長卷身 無銘長二尺三寸二分又文直刃腰樋アリ

尾崎行正氏寄贈

足利時代ニ打刀ノ柄ヲ長大ニシ、長ク卷キテ薙刀ノ如クニ用ヒタレバ此名アリ、中巻トモ書クコトアリ

七五 薙刀身 銘岩捲長一尺六寸二分又文大亂

土屋孫三郎氏寄贈

六一 薙刀身 在銘美濃守藤原政常長一尺三寸又文小亂

二八三 大身槍身 銘義助長二尺四寸五分又文亂ニ小五ノ目交リ逆カ、リ砂流アリ裏ニ血槽アリ

若林定吉氏寄贈

七五 刀身 無銘傳三池典太作長二尺三寸四分五厘又文直刃表裏裏樋樋アリ

大阪毎日新聞主催 參宮團體寄贈

二七七 打刀身 銘山城守藤原國清 長一尺三寸又文直刃表ニ眞ノ俱利伽羅表ニ護摩著梵字ヲ刻シ、中心ニ菊花ヲ刻ス

二四〇 熊毛尻鞘 徳川時代二本 同上

二〇五 素掛黄糸威兜 徳川時代中 平松輝太郎氏出品

二〇六 頬當 一面 同上

二五二 采配 一柄 山村清子氏寄贈 昔陣中ニテ大將ノ士卒ヲ指揮セシ具

二七二 軍配團扇 一柄 同上

二八二 軍扇 一握 古森收藏氏出品 傳古森家ノ祖三品稻葉一徹使用

二三四 試胴具足 一領 兜三枚張花紙綴、漆塗、所々彈痕アリ、髯、日根野形切付札紺絲毛引威、胴、横切山道花紙綴、鐵錆地四所蝶番、草摺ナシ、鐵綿嘴、金具廻捻返シ

繩目、鐵杏葉付、胸ニ八幡大菩薩背ニ天照太神宮、愛宕地蔵權現ノ文字透額形金物ヲ打ッ錦襦袢籠手

二五〇 腹卷 足利時代 一領

傳筑前福岡黒田播磨所用

黒革威、胸白紅威、草摺白茶二段入、大壺袖色々威、紅茶紅二段白ノ七段ナリ、背板ナシ、金具損失後世造ルトコロ。

腹卷ハ鐵ノ一種ニシテ、中古以來用心ノ爲、衣服ノ下若クハ上ニ著シ、腹ニ卷キ背ニ引合セタルモノニシテ、袖モナカリシガ、後ニハ將士共ニ戰場ニ用フルコト、ナリ、袖背板等ヲ仕出シタリ。

〇四四 紺糸威腹當 一領

〇七三 紺素懸威桶側胴具足 大石義久作 一領

〇二九二 大立舉臙當 鎌倉時代 一具

〇八九 水干鞍 一脊

第二室

二七六 打刀身

銘康繼於感前作之葵ノ紋ヲ刻ス。長二尺三寸三分又文直又ニ小亂心アリ表棒槌裏二筋槌アリ

二七六 打刀身

無銘西連本阿彌鑑定書付 長二尺二寸八分又文小灣交ル表裏棒槌ニ添槌アリ

七四 刀身

在銘一文字 長二尺三寸九分又文小亂ニ丁字亂交ル

一八九〇 打刀身

銘周防國二王清貞作 長二尺三寸六分又文珠數又

竹内善四郎氏寄贈

二七三 打刀身

銘備州長船信房 長二尺六寸五分又文直又表裏棒槌ニ添槌アリ

一〇〇〇 打刀身

在銘表備州長船祐定裏永正一〇〇〇長二尺五寸六分又文丁字亂表裏梵字アリ

加藤秀雄氏出品

一八六 打刀身

拵付 長二尺四分反四分七厘 銘薩摩國伯耆守平朝臣正常彫物同人七十三歳造文化二年丑八月

稻垣長昌氏出品

一〇〇六 打刀身

在銘一永仁六年七月日 助光作長二尺六寸反九分一厘

〇七五 練鐔 黒塗、櫃孔アリ

一個

一八三 打刀身

在銘表助村 裏三ツ鱗象銀嵌 長二尺三寸四分反八分三厘

伊達貫一郎氏出品

二九 刀身

在銘二王清貞作摺上 長二尺一分又文直又表裏棒槌アリ

桑原京助氏出品

三三 刀身

在銘備州長船祐定裏銘大永六年八月日 長二尺一寸八分又文大亂丁字亂交ル 表裏棒槌ニ添槌アリ

廣瀬忠三郎氏出品

三六 刀身

直江志津兼延作 長二尺二寸五分又文直又ニ小亂交ル

桑原芳樹氏出品

三七 刀身

祐定作 長二尺一寸九分又文大亂丁字交ル

廣瀬忠三郎氏出品

三〇 太刀身

在銘兼光 長二尺五分又文小亂表裏棒槌アリ

廣瀬忠三郎氏出品

三七 打刀身

無銘長二尺二寸二分

第三室 明治天皇御料・祭祀御料・風俗人形・服飾

三六 狩衣

願文紗表白、菱ニ藻ノ文裏生絹、袖結紫條 東伏見宮御用

一領

奥山中書氏寄贈

古クハ狩獵ニ用ヒタルヲ以テ此ノ名アリ。表ノ服トシテ用ヒ、又織物紋紗等ニテ作り、一般ノ上流ノ所用トナレリ。

二三三 素袍

一領 奥山中書氏寄贈

室町時代ニ布直垂ノ紋所及腰紐・胸紐・菊綴等ヲ變ジテ素襖ト名ヅケ、直垂ヨリ下等ノ服ニ作ラレ、江戸時代ニ至リ、遂ニ無位無官ノ人ノ禮服ト定レリ。

二八〇 火事装束

一具

徳川時代出火ノ際、士民ノ著セシ装束ニシテ、コハ神都ニ御師タリシ松田氏ノ用ヒシモノ、兜頭巾ハ婦人用ナリ。

第三室

三三 武禮冠

一頭 御巫清白氏出品

昔時即位式及朝賀等ノ大儀ニ武官ノ用ヒシモノ。

二五二 禮服

公卿用(模造) 一具

大袖・小袖・裳・表袴・段・玉佩・當帶・錦・襷・烏禮服ハ御即位及朝賀ノ衣服ニシテ、天皇ノ召サル、チ袞冕十二章御衣ト稱シテ、色文チ異ニス。イヅレモ隋唐ノ制ヲ模シタリ。朝賀廢レテ專ラ即位ノ時ノ衣服トナレリ。登極 令ニハ此衣服ヲ廢サレ、代フルニ束帶ヲ以テセラレタリ。

二四 額額裳

一腰

古ハ眞ノ額額裳ヲ用ヒタレド、近代ハ繻ヲ施セリ。徳川時代宮中御儀式ニ女官ノ用ヒシモノナリ。

〇六七 被衣

一領 松田健壽氏出品

第三室

二九六 火車頭巾 男子用 一頭

一八三 中古貴族男子人形 裏服

藤原時代以來貴族ノ體

立烏帽子ニ單直衣・差貫ヲ著、脇息ニ倚リ槍扇ヲ携ヘタル體、是ヲ烏帽子直衣ト稱シ、貴族平常ノ體ニシテ、敕許ナクシテハ宮中ニ參入スルヲ得ズ。敕許アリテモ烏帽子ヲ冠ニ改メテ參入スルヲ法トス。

三三 笙

御巫清白氏出品

三三 箏

同 上

一八三 中古貴族女子人形 裏服

藤原時代以來貴族及之ニ仕フル女子ノ體

スベラカシク、レナキハカマキ、ヒトヘコウチギ、チヤクサウノコトヲ彈ケ體

三

〇八四 小 袷 表綾白地文雲立浦 一領

中倍縹、裏萌黃平絹

〇一五 振 袖 一領

地黒縮子、貝桶二貝ノ正田鹿子縮入裏緋縮緬、金糸ニテ梅々枝ノフキ襷縹模樣

〇三六 綿帽子 枝垂櫻模樣付 一頭

一一〇

箏

神宮神部署出品

一八四 徳川時代上流武家女子盛裝人形 冬服

髪ヲ片ハヅシニ結ビ、白ノ下著ニ赤ノ間著ヲ重ネ、オビツケ、ウチカケ、ハコセコ、カビツキ、カンゼシ、サ帯、付シテ打掛ヲ著、箱世古ト鏡付ニ簪ヲ挿シタルヲ懐、中シテ、手ニ二方ヲ捧ゲテ歩マントスル體、中古ノ小袷ノ變化シタルヲ示ス。

一七〇

筭 子爵 花房孝太郎氏出品

一六九

御緒太 大嘗會ノ節 主上御用 一隻

三〇四 御水次

一個 松川彦太郎氏寄贈

明治四辛未年大嘗會ノ節回立殿御器ノ内、世古格太郎氏拜領

三〇三 御水盤

一個 同 上

第三室

三〇一 御手拭置

一個 同 上

二二六 明治天皇御鐵笛 一管

松川彦太郎氏出品

明治五年故宮内少丞世古格太郎延世拜領、延世自筆ノ拜領書及和歌短冊一葉添フ。

三〇七 御湯帷子

一領 正五位樹下範子氏拜領

故矢野泰也氏寄贈

二六三 御軍服上衣

白リンネル 肋骨飾付 夏 一領

故伯爵三條西公允氏拜領

二六二 御乘馬服 夏 一領

故伯爵三條西公充氏拜領

御短衣ニ染マリタル御汗ノ痕ヲ拜シテ、聖體ノ鍛鍊ニ深ク聖慮ヲ用ヒサセ給ヒシコトヲ思ビ奉ルベキナリ。

三

第三室

二、五八 御直衣 夏二藍御文三重縷 冬白地御文小葵 二領

平常御用ヒノモノニシテ、長ク引キ給フ故ニ、御引直衣又ハ御下直衣トモ云フ。下ニハ長キ緋ノ御袴ヲ著ケ給フ。

二、五九 御齋服 帛御袍、帛御單帛御下、帛御表、袴(裏薄紅)帛大口 一領

御齋服ハ大嘗祭・新嘗祭等、天皇親ク神祇ヲ祭り給フ時、著御アラセラル、御衣ナリ。

二、五五 黃櫨染御袍 冬(卷首寫) 各一領

元黃櫨ヲ以テ染メタルニ因テ名ヅク。紋ハ桐・竹・鳳・風・麒麟、夏ハ生裏ナシ。冬ハ練裏平絹、天皇ノ御位袍ニシテ、神事ヲ除ク外、嚴儀ノ公事・御儀式等ニ著御アラセラル。

二函

一、三〇 京人形軍扇貝合簞笥 一函

明治天皇御幼時ノ御玩具

祐宮御伽役奉仕中藤澤品子拜領

藤澤實善氏出品

一、三〇 乘馬・鶏 明治天皇御幼時御玩具 一函

同 上

一、三〇 御幼時ノ御衣 一領

同 上

一、三一 御幼時ノ御袴 一枚

同 上

一、三二 御太刀 一振

同 上

第四室 服飾・家什・調度・文房具・樂器・遊戲具・

度量衡・貨幣

三、四一 難波家蹴鞠免許狀 五通

三、四二 飛鳥井家蹴鞠免許狀 四通

三、四三 蹴鞠道目代仰渡申達狀 二通

三、四四 蹴鞠裝束 上葛袴・白帶・烏帽子・沓

此ノ技ハ我國ニテハ皇極天皇ノ御代、中大兄皇子ガ藤原鎌足ト行ヒ給ヒシコトアリ、蹴鞠始メテ此ニ見ユ。延喜以降ハ専ラ宮禁貴紳ノ間ニ行ハレ、名人マタ輩出セリ。

三、四三 鞠 銘桐壺、掃木 二個

三、四二 鞠沓 一足

三、四一 鴨沓 一足

第四室

一、七〇 正倉院御物文房具圖 原品奈良時代 一面

一、七一 硯 徳川時代 一面 井阪新太郎氏出品

三條實萬 彌ヨリ足代弘訓ニ與ヘラレシモノニシテ、左記同卿ノ消息(九五號)ニヨリテ詳ナリ。度會弘訓神主搜索皇朝之史書其用意也深甚切足感嘆矣爲慰其勞附與硯一枚耳
此硯者自禁中拜賜物也
嘉永二年五月一日 權大納言實萬

一、七二 絲印 九顆

弄球獅鈕印面圓形・獅鈕印面圓形・猿鈕印面圓形・獅鈕印面圓形・獅鈕印面圓形・人鈕印面方形・壽老鈕印面長方形・立獅鈕印面方形・走狗鈕印面方形。

第四室

三四三ノ内 烏帽子

一頭

蹴鞠實景寫真 一葉

大阪朝日新聞社寄贈

大正十一年五月廿四日大阪高津神社奉納ノモノ

二二九〇 羽子板

三葵紋付 徳川時代

一枚

御巫清白氏寄贈

二四〇〇 羽子板

徳川時代

三枚

黒田家所用、同家紋アリ、享保年間ノ製。

三三六

羽子板 徳川時代

二枚

胡粉盛上テ彩色香葉牡丹ノ紋ヲ付ス。裏ニ左儀長ノ繪アリ。

三三〇

狗張子 雛道具

徳川時代 二對

小川澄郎氏寄贈

二二四

紙雛 徳川時代

二對

三三 立雛

徳川時代

小八個

三二 御所人形

徳川時代

一軀

三二 御所人形

松木茂子氏寄贈

ムラサキチリイシウハギ、シロムク、シタビ、シロギヌ、ハカマツ、紫、縮、絹ノ上著、白無垢ノ下著、白絹ノ袴ヲ著ク。

御所人形ハ宮中又ハ貴紳ヨリ給ハルヲ以テ名ヅク。又關東ニ多ク來リシヲ以テ御土産人形トモ云ヒ、問屋ノ名ニヨリテ伊豆倉人形トモ云ヘリ。

三三 加茂人形

九軀

御土産人形

小二軀

手遊

四個

鴛鴦・熊雌・鷄・犬 徳川時代

第四室

三六

絲印ハ足利時代中葉ヨリ豊臣時代ニ互リ、支那ヨリ傳來シタルモノナリ。銅製ニシテ、物體ノ形象ヲ以テ鈕トシ、印文ヲ鑄出シタルバ字體整ハズ、讀ミ能ハザルヲ常トス。其ノ絲印ト稱スルハ、彼國ヨリ輸入セル唐糸ノ内ニ入レタルモノナリト云フ説アリ。

二二〇五

銅印 雞頭鈕・印文大福・貞・賴久 三顆

本邦製ノ古印ニシテ、篆文奇古ナリ。奈良朝乃至平安朝ノモノニシテ、世ニ大和古印又ハ延喜古印ナド、稱ス。又其鈕ノ形ニヨリテ、雞頭鈕ノ印トモ稱ス。之ニ類スルモノ、間々朝鮮ニモ存セリ。

一六六

硯屏 紫檀製 明時代 一基

三三六

軸盆 二卷置 徳川時代 一個

卷物ヲ置キテ座敷ニ用フルモノナリ。

一五七〇

小机 金具剥落、黒塗、黒漆ニ髹ル時繪、縦八寸一分、横一尺六寸、高四寸四分 徳川時代 一脚

二二

短冊笥 黒塗時繪、神馬藻七寶ニ菱時繪、銀座酸漿紐眞紅丸打、長一尺三寸五分、幅三寸一分、高二寸九分 徳川時代 一個

二二 文箱

響紋時繪 徳川時代 一個

松田健壽氏出品

一六六

硯箱 沃懸硯及眞鍮水滴添、墨筆等 缺、楠桐製唐櫃形、掛子紐付 金砂子花模様 徳川時代 一個

二一〇六

筆 原品奈良時代(正倉院御物模造) 一管

七〇六

天平筆 原品奈良時代(正倉院御物模造) 一管

増井久之助氏寄贈

奈良正倉院御物ヲ模造シタル心有筆ニシテ、紙ヲ以テ卷キテ之ヲ心トシ、筆毛ヲ纏ヒテ製ス。筆穂ノ形

三七

第四室

加茂人形ハ加茂社家ヨリ造リ出セルヨリ此名アリ、衣服ヲ極メ込ミテ造リタレバ一名木目込人形トモ稱ス。

九二 萬葉集 德川時代 冊子綴古本 二冊

金襴表紙黒漆線唐草金時繪箱入 筆者不詳

九三 古今集 德川時代 冊子綴古本 二冊

鐵線唐草時繪箱入 筆者不詳

九三 伊勢物語 德川時代 冊子綴古本 二冊

鐵線唐草時繪箱入 筆者不詳

三四二 十炷香道具

十炷香箱・吉野折・記紙差・香匙・香羽箒・火筋二・銀葉鉢・鶯・銀葉・地敷紙・小刀・香筋・灰押・裏香箱・香盒・對香爐・火取香爐・札筒・香札・銀葉盤・折居・火筋立・香包・銀葉入・客香包二・試包一二三四五・四五木香包・四五試香包・客香試包・小鳥香・小鳥・小草・宇治山・花月・源氏香。

三三 源氏香箱 一合

一五 貝桶 德川時代 一雙

子爵 花房孝太郎氏出品

容器 黒塗丸ニ一ノ字ノ紋及橘唐草時繪印籠蓋緋色絹紐付黄地銀襷被添。 三百六十四合、内面極彩色泥繪人物花鳥調度 貝 圖アリ。 遊戲具ノ一種ナリ。

四二 毬香爐 德川時代 一個

支那ニテ被^{フスマノウチ} 中ニ用ヒシモノ、遺風ニシテ、火入^{ハクウ} 廻^{クワイアン} 轉ス。之ヲ飾ルニハ臺ノ上ニ置キ、銀アル場合ニハ、釣リ用ヒテ釣^{フリカウロ} 香爐トイフ。

一六五 火屋香爐 銅製 德川時代 一個

茶人蓋置ニ用フルモノ。

三〇一 香爐 德川時代 一個

第四室

六

ハ所謂雀^{ジャットウ} 頭ト稱スルモノニシテ太ク圓ク短シ。

一六七 銅硯 支那製、楕圓鸞形、長三寸三分裏銘曰青鸞獻壽 一面

一四七 墨床 銅製 厭勝錢形 一個

一六四 硯 (模造) 銘曰雙々瓦雀云云裏銘東閣ノ珍 一面

一六三 小刀 硯箱用 德川時代 一挺

一七七 文鎮 德川時代 二個

九八 墨型 鐵製 唐時代 一個

七〇 墨 元祿八年製、德川時代 一挺

二九〇 新羅墨 (正倉院御物模造) 一挺

裏面ノ銘ニ曰ク、維時明治八年乙亥東大寺博覽會 御寶庫正倉院御物新羅墨家官許謹而模寫之 古梅園製造

一六三 水滴 甲銅製、鍍銀鸞高彫側鍍金 一個

一六四 水滴 甲銅製 七寶入 一個

一五二 肉池 支那製、明時代、質青銅唐草七寶流、徑三寸二分 一個

九六 螺鈿細工机 支那山水繪 一脚

松田健壽氏出品

三四 硯箱 黒塗丸葵立澤^{オシヅカ} 瀟瀟紋時繪 德川時代 一個

一五九 硯 瓦形粘板岩製(模造) 裏銘曰未央宮東閣瓦長七寸四分、幅四寸五分 一面

一五七 瓦硯 銘細波、長五寸七分、幅三寸五分、厚九分 德川時代 一面

元

第四室

黒塗地ニ水ニ紅葉ノ金蒔繪、傳高尾ノ物。

一六二 香爐 平戸製 一個

七五 香盒 一合 村井與四郎氏寄贈

角形、染付人物ニ團基ノ模様、吳、祥瑞造ノ銘アリ。

一六 香道具 一具

盤板共ニ楳合朱塗、小板二板、鞍馬人形一對、同板二枚、黒柿臺二個、矢數香用矢黒柿臺十一本、圓花香用櫻紅葉臺付十本、瓢箪金總付十個銀總付十個。

沈・白・檀等各種ノ香木ヲ薰ジ、人々之ヲ暗射シテ勝負ヲ決ス。之ヲ香合トイフ。其方法ニヨリ種々ノ名アリ、隨ツテ其勝負ヲ標スル道具モ異ルモノヲ用フルナリ。

一六 焚殻入 蓋缺 徳川時代 一個

梨子地、蘆千鳥、龜蒔繪。

一六 雙六盤 徳川時代 一基

三〇

二〇九 料紙箱 螺鈿唐草模様 徳川時代 一合

一五七 料紙箱 表扇散蒔繪、内部山吹蒔繪(金物後補) 徳川時代 一合

一八〇 袍 納蘇利用 一領 服部善八氏寄贈

武官着用ノ闕服ノ袍ト同ジクシテ、袖括アルチ異リトス。左方ニハ赤色ヲ、右方ニハ青色ヲ用フルヲ常トス。舞樂ノ時、コノ上ニ兩襟ヲ著シテ下ニ差貫ヲ著ク。

舞樂ハ雅樂ニ合セ舞フモノニシテ、天竺漢土ノ樂トシテ、多ク佛教傳來ト同時ニ渡來シタルモノナルガ、後ニハ神事其他朝廷ノ諸儀式ニモ用ヒラル、ニ至レリ。

二五六 襦 納蘇利用 一領

二五〇 表袴 納蘇利用 裏書曰正徳壬辰九月三日東大寺八幡宮 一腰

二五六 腰帶 納蘇利用 裏書曰正徳四年九月三日東大寺八幡宮 一腰

二五四 牟子 納蘇利用 青銀襷 一頭

二五五 桴 納蘇利用 傳東大寺八幡宮舊藏 一本

二五六 袍 舞樂用左方 一領

二五六 袍 林歌用右方 一領

二五九 冑 林歌用右方 一頭

二四〇 絲鞋 一足

絲ニテ編ミタル沓ニシテ、幼童及武官・舞人ノ用フルモノナリ。

二五六 舞樂面 散手 裏書曰正四位上出羽守太秦俊壽宿禰花押八十一歳ノ作 一面

一四七〇 舞樂面 散手 傳曰東大寺八幡宮舊藏刻銘應徳三年云云 藤原時代 一面

三一

第四室

黒塗地ニ水ニ紅葉ノ金蒔繪、傳高尾ノ物。

一六二 香爐 平戸製 一個

七五 香盒 一合 村井與四郎氏寄贈

角形、染付人物ニ團基ノ模様、吳、祥瑞造ノ銘アリ。

一六 香道具 一具

盤板共ニ楳合朱塗、小板二板、鞍馬人形一對、同板二枚、黒柿臺二個、矢數香用矢黒柿臺十一本、圓花香用櫻紅葉臺付十本、瓢箪金總付十個銀總付十個。

沈・白・檀等各種ノ香木ヲ薰ジ、人々之ヲ暗射シテ勝負ヲ決ス。之ヲ香合トイフ。其方法ニヨリ種々ノ名アリ、隨ツテ其勝負ヲ標スル道具モ異ルモノヲ用フルナリ。

一六 焚殻入 蓋缺 徳川時代 一個

梨子地、蘆千鳥、龜蒔繪。

一六 雙六盤 徳川時代 一基

黒柿製、木口黒塗蒔繪、杏葉、牡丹ニ轡紋付、手掛金物、金銅埋角ニ破損アリ、同筒黒塗蒔繪盤ニ同、白石角製、黒石木製賽二個付。

双六ハ支那ヨリ傳來シタル遊戲ニシテ、小兒ノモテアソブ畫双六モ亦之ヨリ轉シタルモノナリ。

三六 脇息 火取香爐添 豊臣時代

甲天鷲絨張、金銅籠透菊桐模様火屋付、地黒塗水ニ葵河骨盧ノ蒔繪、菊桐金紋散、火取香爐同斷、倚懸ニ薰爐ヲ裝置セシモノ、一種ノ脇息ナリ。

二七六 鏡臺 流水ニ紅葉ノ蒔繪 徳川時代 一個

三〇三 鶴龜松竹鏡 徳川時代 一面

一四八 置時計 一個

懷中時計ヲ臺ニ裝置シタルモノ。

一四八 尺時計 一個 大橋眞之助氏出品

第四室

第四室

分銅ニ附ケタル指針ノ上下ノ位置ニヨリテ時刻ヲ示スモノ。

109 琵琶 雅樂用 一面 神宮神部署出品

256 笙 銘鳳凰丸 雅樂用 一管

極書曰、右之古管作者不知年數凡及三百年餘尤音律勝可爲秘藏重器也。
從四位下右京亮伯則安 花押
明和三丙戌歲八月

257 箏 銘翁 雅樂用 一管

258 横笛 銘布し丸 一管 西村源十郎氏出品
松平樂翁公御手細工、不思議丸記廣瀨家齋書一卷添

259 横笛 雅樂用 一管

260 横笛筒 相笛入 一個

261 横笛筒 一個

262 神樂笛 雅樂用 一管

我國固有ノモノニシテ、太笛トモイフ。

263 高麓笛 高麗樂用 一管

264 一節截 袋添銘初風 一管

服部林右衛門氏寄贈

265 尺八 黒塗 徳川時代 一管

石川松吉氏寄贈

266 瑠璃尺 (模造) 一本

一面ニハ十二支ノ圖ヲ順ニ描キ、一面ニハ樓閣・庭園・花鳥ト順次ニ描キ、悉ク藍ヲ以テ彩色ヲ加フ。現品岩代國耶摩郡惠日寺所傳

267 兩替屋看板 一個 宇仁田仁兵衛氏出品

第四室

三

149 舞樂面 貴徳 傳曰南都東大寺八幡宮舊藏 刻銘 應徳三年云云 藤原時代

150 伎樂面 (模造) 崑崙 原品奈良時代 一面

伎樂ハ「くれがく」ト訓ス。佛教ト同時ニ渡來シタル所謂吳國ノ樂ニシテ、奈良朝時代ニ行ハレタルガ、中ニ絶シテ今ハ傳ハラズ。ソノ曲目ノ一部ハ舞樂ノ中ニ編入セラレテ、後世ニ殘レルモノアリ。

151 伎樂面 (模造) 迦羅羅 原品奈良時代 一面

152 能面 黒 尉(三番叟)木製作者不詳 山中芳助氏出品

153 能面 白 尉(翁)木製 日光作 同 上

154 舞樂面 蘭陵王 東大寺八幡宮舊藏(傳書) 一面

155 舞樂面 納蘇利 真書曰 正元元年九月三日取順作 正徳三年九月三日令修復者也東大寺八幡宮

156 正倉院古習 額装 一面

157 正倉院御物古習圖 原品奈良時代 一圖

158 舞樂圖 二卷 神宮文庫出品

159 正倉院古習 額装 一面

160 石帶 通常帶 瑪瑙巡方丸軛打交 一條

寺田直三郎氏寄贈

石帶ハ朝服ニ用ヒ、古代ハ一條ニシテ、金銀玉石等ノ飾ヲ付ケ、革帶ト稱セシガ、後ニ條ニ切り石ヲ以テ飾リタルバ、石帶ト呼ブニイタレリ。

三位以上ハ玉・瑪瑙ヲ用ヒ、四位以下ハ白石・犀角ヲ用フ。石ニ瑪瑙・白石・其他犀角等ノ質アリ、巡方・丸軛ノ別アリ、巡方ハ神事又ハ吉事ニ用ヒ、丸軛ハ佛事等ニ用ヒシガ、後ニハ巡方丸軛ヲ打交セテ吉凶共ニ用フル事トナレリ。

三

第四室

七〇 支那古尺 (模造) 唐大尺唐小尺周尺 三二本

足代弘雄氏寄贈

三三〇 一斗樹 一個

高松勝重氏寄贈

舊桑名藩使用 天保十三年月日記入

七九 樹 一個

足代弘雄氏寄贈

足代弘訓翁筆記入アリ、内面ニ庚戌歲(慶長十五年)三方會合ノ烙印、外面ニ寛永二十年ノ刻銘アリ。

八三 天秤 (ハリクチ) 一基

宇仁田仁兵衛氏出品

三〇五 秤 一具 徳川時代

御巫清白氏出品

八三 壹朱銀五兩量 二個 安政時代

宇仁田仁兵衛氏出品

八三 新貳朱金拾兩量 一個 文久時代

同上

九七 石帶 徳川時代

一條

三三 銀魚袋 徳川時代 一個 石谷峻三氏出品

魚袋ハ朝廷ノ公事ニ佩用セシモノニシテ、奈良朝ニハ唯當色ノ帯ニテ縫ヒタル袋ナリシガ、後ニハ絞皮ニテ包ミタルモノトナレリ。三位以上ハ金魚、四位以下ハ銀魚ヲ飾トス。

六三 折鳥帽子 (模造) 一頭

立鳥帽子ノ外、スベテ頂ヲ折リタル鳥帽子ノ總稱ニシテ、風折鳥帽子・侍鳥帽子ナドナリ。

六四 折鳥帽子 後三年形 一頭

六五 折鳥帽子 島津折 一頭

六六 折鳥帽子 小結 一頭

二九 折鳥帽子 一頭

二九七 長小結折鳥帽子 一頭



八五 壹朱銀五兩量 一個 天保時代

同上

八四 貳分金貳拾兩量 一個 天保時代

同上

三七 金箱 木製、黒塗鐵金具、鍵付 一個

六六 千兩箱 一個 野間園彦氏出品

七二 軍用千兩箱 鐵製、鍵、錠付

藤井 鼎氏寄贈

傳云、天和頃稻葉氏小田原城主タリシ時作ル。

三三 古金壺及蓋石 一個 石谷峻三氏出品

蓋ハ石製、同石口添、鉄環付、徳川時代民間ノ倉庫用トシテ、火難・盜難豫防ノ爲、金錢ヲ藏シ、床下土中ニ埋メシモノ。

三三〇 本朝十二文錢 十二枚

第四室

二九六 大鍬立鳥帽子 一頭

二九六 紗張卷纓綫冠 一頭

六二 檜扇 木地男子用 一握

二八二 中啓 徳川時代 一握

六九 笏 一位木製 徳川時代 二枚

芝山安郎氏寄贈

一ハ手元ニ度會知榮ト刻シ、一ハ文字削除。

三四五 笏 内宮氏富長官梓樂祭所用

竹内文平氏寄贈

三三 正倉院古帛帖 推古時代乃至奈良時代 一帖

二九 紺地唐組切平緒 黃鳳凰紋刺繡 一組

武官及ビ文官ガ、太刀ヲ佩ク時用フルモノニシテ、

第四室

- (一) 和銀開珍 和銅元年所鑄
- (二) 萬年通寶 天平寶字四年所鑄
- (三) 神功開寶 天平神護元年所鑄
- (四) 隆平永寶 延曆十五年所鑄
- (五) 富壽神寶 弘仁九年所鑄
- (六) 承和昌寶 承和二年所鑄
- (七) 長年大寶 嘉祥元年所鑄
- (八) 饒益神寶 貞觀十二年所鑄
- (九) 貞觀永寶 貞觀十二年所鑄
- (一〇) 寬平大寶 寬平二年所鑄
- (一一) 延喜通寶 延喜七年所鑄
- (一二) 乾元大寶 天德二年所鑄

二、三 秋田銅錢

三枚

自二、三四
至二、三五

德川時代金銀貨 (模造) 八十二枚

田中芳男氏寄贈

- (一) 慶長大判 慶長六年ヨリ元祿十六年マテ百〇五年間鑄造
- (二) 駿河座慶長小判 慶長六年ヨリ元祿十六年マテ

- ア百〇五年間鑄造
- (三) 京座慶長一分 慶長六年ヨリ元祿十六年マテ百〇五年間鑄造
- (四) 慶長丁銀豆板 慶長六年ヨリ元祿八年マテ九十五年間鑄造此丁銀ニ大小輕重アリ、量目ハ四十四匁ナルヲ掛目不足スルトキハ豆板ヲ以テ之ヲ補フモノナリ。
- (五) 元祿大判 元祿八年ヨリ寶永七年マテ十六年間鑄造
- (六) 京座元祿小判 元祿八年ヨリ寶永七年マテ十六年間鑄造
- (七) 元祿一分 元祿八年ヨリ寶永七年マテ十六年間鑄造
- (八) 元祿二朱 元祿十年ヨリ寶永七年マテ十四年間鑄造
- (九) 元祿丁銀豆板 元祿八年ヨリ寶永三年マテ十三年間鑄造
- (一〇) 京座乾字小判 寶永七年ヨリ正徳四年マテ鑄造
- (一一) 京座乾字一分 寶永七年鑄造

第四室

五

色ハ銀ノ装^{サウシヨク}飾ニ隨ヒ、紺・紫・^{ハナメ}縹・茶等アリ、元一條ナリシヲ、後二條ニ分テ、之ヲ切平緒トイフ。五位以上ハ唐組ヲ用フ。

二天 二神四獸鏡 支那製、漢末徑三寸九分 一面

松永重太郎氏寄贈

我が國ノ鏡ハ、上古以來支那ヨリ傳^{デンライ}來シタルモノモアリシガ、藤原時代以後ハ、専ラ内國製ノモノヲ用ヒ、輸入品ハ其後漸ク跡ヲ絶ツニ至レリ。鏡ノ名ハ、鏡背ノ模樣ニヨリテ稱スルモノナリ。

- 二、〇七三 瑞花紋鏡 金時代 支那製 徑三寸六分 一面
- 二、〇八二 八花鴛鴦鏡 唐時代 支那製 徑三寸九分 一面
- 一、六九三 八葉鏡 明時代 支那製 徑八寸四分 一面
- 二、〇八一 柄鏡 明時代、支那製 徑三寸八分 一面
- 二、〇六六 葡萄鏡 宋時代 支那製 徑三寸 一面

- 二、〇七〇 海獸葡萄鏡 支那製 徑三寸一分 一面
- 二、〇五九 素背燻紋鏡 明清時代 支那製 徑二寸六分五厘 一面
- 二、〇六九 素背鏡 明時代 支那製 徑二寸九分 一面
- 二、〇六三 樓閣人物鏡 李朝時代 朝鮮製 徑三寸二分 一面
- 二、〇六一 楕圓鏡 歐洲製? DAVONノ歐字アリ、長二寸八分、巾一寸九分 一面
- 二、〇一〇 蘆鶴八稜鏡 平安後期、徑四寸五分 多度神社境内發見 一面
- 二、〇三二 瑞花鴛鴦鏡 平安後期、表面ニ愛染明王像ノ毛彫アリ、多度神社境内發見、徑三寸六分五厘 一面 同 上
- 二、〇三三 瑞花雙鳳八稜鏡 平安後期、徑三寸五分五厘 多度神社境内發見 一面 同 上
- 二、〇三三 瑞花鴛鴦五花鏡 平安後期、徑三寸六分五厘 多度神社境内發見 一面 同 上

七

第四室

- (一) 三寶丁銀豆板 寶永七年ヨリ正徳元年マテ二年間鑄造
- (二) 永字丁銀豆板 寶永七年鑄造
- (三) 小つ、此小つ、ハ丁銀受渡ノ際、銀一枚四十四匁ニ分厘ノ不足ヲ生セシトキ、之ヲ補フモノナリ。
- (四) 四寶丁銀豆板 正徳元年ヨリ同二年マテ鑄造
- (五) 元文小判 元文元年ヨリ文政元年マテ八十三年間鑄造
- (六) 文政眞寶一分 文政十一年ヨリ天保八年マテ十年間鑄造
- (七) 元文眞字小判 元文元年ヨリ文政元年マテ八十三年間鑄造
- (八) 元文丁銀豆板 元文元年ヨリ文政元年マテ八十三年間鑄造
- (九) 明和五匁銀 明和二年ヨリ安永元年マテ八年間鑄造
- (十) 安永南録二朱 安永元年ヨリ文政七年マテ鑄造
- (十一) 享保大判 享保十年ヨリ天保八年マテ百十三年間鑄造

第四室

- (一) 年間鑄造
- (二) 享保小判 享保元年ヨリ元文元年マテ二十一年間鑄造
- (三) 享保一分 同上
- (四) 享保丁銀豆板 正徳元年ヨリ元文元年マテ二十六年間鑄造
- (五) 文政小判 文政二年ヨリ同十年マテ九年間鑄造、草文小判是ナリ。
- (六) 文政二分 文政十一年ヨリ天保八年マテ十年間鑄造
- (七) 文政一分 文政二年ヨリ同十一年マテ十年間鑄造
- (八) 角形文政一朱 文政七年ヨリ天保三年マテ九年間鑄造
- (九) 文政丁銀豆板 文政三年ヨリ天保八年マテ十八年間鑄造
- (十) 文政南録二朱 文政七年ヨリ天保三年マテ九年間鑄造
- (十一) 明和南録一朱 安永元年ヨリ文政七年マテ五十三年間鑄造

二八〇 八稜寶相華鏡

藤原時代末 一面

二七七 山吹蝶鳥鏡 (殘缺)

藤原時代 一面

二六〇 八葉鏡 本邦製

藤原時代 一面

二〇五 龜甲紋雙雀鏡

本邦製、鎌倉時代末、一面

二〇四 菊花散双鶴鏡

本邦製、足利時代末、一面

二〇天 鶴龜鏡

本邦製、足利時代、一面

二〇六 菊花双雀鏡

本邦製、足利時代末、一面

二〇七天 菊花双雀鏡

本邦製、鎌倉時代、一面

二〇〇 芙蓉尾長鳥鏡

本邦製、足利時代、一面

御巫清白氏出品

二〇七 草花双雀鏡

本邦製、足利時代、一面

二〇三 松月双雀鏡

本邦製、足利時代、一面

二〇二 竹丸紋双鶴鏡

本邦製、足利時代、一面

二〇七 唐花雙鸞鏡

本邦製、足利時代、一面

二〇三 双雀鏡

本邦製、足利時代末、一面

二〇八 菊花散双雀鏡

本邦製、足利時代、一面

二〇五 神馬文方鏡

本邦製、織豊時代、銘天下一淨阿彌作、縦六寸四分、横六寸一分五厘、一面

二〇〇 柄鏡 桐紋付

本邦製、織豊時代、銘天下一青、長三寸一分、柄長三寸六分、一面

第四室

- (三) 文政一朱 文政十二年ヨリ天保八年マテ九年間鑄造
- (四) 天保小判 天保八年ヨリ安政五年マテ二十二年間鑄造
- (五) 大形安政二朱 安政元年ヨリ慶應年度マテ鑄造
- (六) 天保丁銀豆板 天保八年ヨリ安政五年マテ二十二年間鑄造
- (七) 安政小判 安政三年ヨリ萬延元年マテ五年間鑄造
- (八) 安政二分 同上
- (九) 安政一分 同上
- (十) 安政丁銀豆板 安政元年ヨリ慶應元年マテ十二年間鑄造
- (十一) 天保吹増大判 天保九年ヨリ萬延元年マテ廿三年間鑄造
- (十二) 天保一分 天保八年ヨリ安政五年マテ廿二年間鑄造
- (十三) 天保二朱 天保三年ヨリ安政五年マテ廿七年間鑄造

四〇

- 二〇八二 柄鏡 桐紋付 本邦製、徳川時代、銘天下 一面
- 六〇七 鶴龜松竹鏡 本邦製、徳川時代、銘天下 一面
- 二九五 裏菊鐵線連紋鏡 本邦製、徑二寸六分 五厘 徳川時代初期 御巫清白氏出品 一面
- 一四九六 變形獸帶鏡 (模造) 支那製、徑七寸三分 一面
- 二六六 内行花紋鏡 支那製、(模造) 徑二寸八分 一面
- 二八九 松竹双雀鏡 本邦製、徑三寸六分五厘 一面
- 二〇六八 清白鏡 支那製 (模造) 徑二寸九分 一面
- 二〇六五 雙龍鏡 支那製 (模造) 徑二寸九分 一面

二二四三

日本錢

二一十五個

- (四) 天保古一分 天保八年ヨリ安政元年マテ十八年間鑄造
- (五) 天保五兩判 天保八年ヨリ同十四年マテ七年間鑄造、保字五兩是ナリ。
- (六) 嘉永一朱 嘉永六年ヨリ慶應元年マテ十三年間鑄造
- (七) 新大判 萬延元年ヨリ文久二年マテ三年間鑄造
- (八) 新二分 萬延元年ヨリ元治元年マテ六年間鑄造
- (九) 安政一分 安政六年ヨリ元治元年マテ六年間鑄造
- (十) 新小判 萬延元年ヨリ慶應三年マテ八年間鑄造
- (十一) 新一分 萬延元年ヨリ慶應三年マテ八年間鑄造
- (十二) 新二朱 萬延元年ヨリ明治二年マテ十年間鑄造

二六五

二六五 釜 淨吸作 一口 大江龍瑞氏寄贈

二六六

二六六 風爐 清左衛門作、敷瓦及五徳添 一個 上

一〇四

一〇四 車軸釜 古天明作、一名桐の臺の釜 一個 藤堂博文氏出品

三

三 飯口羽釜 古天明作 一口 中山讚治氏出品

一〇四

一〇四 百枝松水指 一個 加田利八氏出品

傳、元祿六年九月外宮長官度會常和內宮百枝松材ヲ以テ、製作セシメタルモノナリ。底ニ「元祿

第四室

自和銅開珍「和銅開珍」二個・萬年通寶・神功開寶・隆平永寶・富壽神寶・承和昌寶・長年

大寶・貞觀永寶・延喜通寶・乾元大寶・文祿通寶・慶長通寶・元和通寶・寬永通寶(種錢)一一個・寬永通寶一八個・貞享通寶

二四七 日本錢

十一個

自寬永通寶「寬永通寶(當四)一一個・寶永通寶(當十)一一個・天保通寶(種錢)當百一三個・文久永寶(種錢)當四一四個

二四八 支那錢

二十八個

自治平通寶 北宋時代 自壽昌元寶遼時代 至靖康通寶

自宋英宗治平元年(後冷泉天皇康平七年) 至宋欽宗靖康二年(崇德天皇大治元年)

「治平通寶」一一個・熙寧元寶一一個・元豐通寶一四個・元祐通寶一三個・紹聖元寶一一個・元符通寶一一個・聖宋元寶一一個・大觀通寶・政和通寶一一個・宣和通寶一五個・靖康通寶・壽昌元寶・乾統元寶

二四九 支那錢

二十八個

自建炎通寶 南宋 自正隆元寶 金 自元貞通寶 元至成淳元寶 南宋 至大定通寶 金 至天定通寶 元時

代 自南宋高宗建炎元年(崇德天皇大治二年) 至元順宗時代(御村上天皇正平中)

建炎通寶一一個・紹熙通寶・乾道通寶・淳熙元寶一一個・慶元通寶・嘉泰通寶・開禧通寶・嘉定通寶・大宋元寶・紹定通寶・端平元寶・喜熙通寶・淳祐元寶一一個・皇宋元寶・開慶通寶・景定元寶・成淳元寶・正隆元寶・大定通寶・元貞通寶・大德通寶・至大通寶・至正通寶・天祐通寶・天定通寶

二五〇 支那錢

二十四個

自明太祖即位前八年(後村上天皇正平十六年) 至清聖祖康熙中(靈元天皇延寶中)

大中通寶・洪武通寶一五個・永樂通寶・宣德通寶・弘治通寶・嘉靖通寶・隆慶通寶・萬曆通寶・天啓通寶・崇禎通寶・弘光通寶・隆武通寶・永曆通寶・永昌通寶・利用通寶一一個・昭武通寶・洪化通寶一一個・祐民通寶

二五一 支那錢

三十五個

自宋太祖開寶中(冷泉圓融兩帝交) 至宋英宗治平元年(後冷泉天皇康平七年)

宋元通寶・太平通寶・淳化元寶一四個・至道元寶一三個・咸平元寶・景德元寶・祥符元寶一一個・天禧通寶・天聖元寶一一個・明道元寶一一個・景

第四室

年九月吉日外宮長官常和」ノ署名アリ。

二五五 鉦鼓竝撥

雅樂用 臺裏銘曰樂器師 神田内匠作 一基

二五六 樂太鼓

撥添、雅樂用臺裏銘曰 樂器師神田内匠作 一基

二五七 羯鼓

撥添、雅樂用 一基

二五九 正倉院御物碁局圖

原品奈其時代 一面

二六〇 正倉院御物琵琶圖

原品奈其時代 一面

二七七 木盃

朱塗徑四寸五分 一口

二七三 燈臺

木製 高二尺五寸五分 一基

二七七 香枕

一基

二四 繪骨牌

八個

二七六 和琴

一面

二七九 能面

大飛出 一面

二八三 能面

大慈見(缺損) 一面

二八五 茶壺

(模造) 一個

二五二 支那錢(大錢)

十六個

自北宋神宗元豐元年(白河天皇承暦二年) 至清文宗成豐中(孝明天皇嘉永安政頃)

元豐通寶(當二)・聖宋元寶(當二)・崇寧通寶(當三)・至正通寶(當三)・大中通寶(當二)・大中通寶(當三)・大中通寶(當十)・永曆通寶(當二)・三個興朝通寶(當十)・順治通寶一一個成豐通寶(當十)一一個

二四三 支那錢

二十四個

佐藤八藏氏寄贈

自清太祖天命元年(後水尾天皇元和三年) 至清光緒年間(明治八年後)

第四室

第四室

天命通寶・順治通寶一・二個。康熙通寶一七個。雍正通寶一・二個。乾隆通寶一・二個。嘉慶通寶一・二個。道光通寶一・三個。咸豐通寶一・三個。同治通寶。光緒通寶。

二二五三

安南錢

三十五個

自黎大行帝天福五年(圓融天皇永觀二年)至阮嗣德年間(明治十五年後)
天福通寶・大治元寶・紹平通寶・大和通寶・延寧通寶・光順通寶一・二個。洪德通寶・景統通寶・瑞慶通寶・洪順通寶・明德通寶・平安通寶一・二個。元和通寶・永壽通寶・永盛通寶・保泰通寶・景興通寶一・四個。景興巨寶・景興大寶・景興重寶・景興至寶・泰德通寶・昭統通寶・光中通寶・景盛通寶・嘉隆通寶一・二個。明命通寶・紹治通寶・嗣德通寶。

二二五四

畫錢及厭勝錢

九個

車念佛畫錢(本邦製)・厭勝錢(支那製)一六個。大健稻符畫錢(本邦製)・蛭子畫錢(本邦製)

三三四七

金札及羽書

二十六枚

慶應四年(即明治元年)太政官會計局金拾兩・慶應

四

四年(即明治元年)太政官會計局金壹兩・西京爲替會社金壹兩・明治二年大阪爲替會社金壹兩・明治二年民部省通商司金貳分二枚・慶應四年(明治元年)太政官會計局金壹兩・京通商司爲替會社錢五百文・爲替座三井組貳拾錢・岡田引替會社三〇〇人・備中大內引替會所銀五厘・京通商司爲替會社錢貳百文。桑名銀壹匁二枚・鳥羽銀壹匁二枚・津銀壹匁二枚・松阪壹匁預二枚・伍分預一枚・山田壹匁預二枚・貳分預壹枚・備中片塚多和錢壹分預二枚。

九六九

九六九 龜甲製、粉溜、菊蒔繪

九七〇

九七〇 龜甲製、山水四阿襖樣ノ硝子板嵌入

九七一

九七一 黑漆菊水蒔繪

九七三

九七三 溜塗鳳凰薄肉彫金箔押

九七四

九七四 象牙製

九七五

九七五 黃楊鶯鶯形

九六三

九六三 龜甲製、松葉ニコホン梅蒔繪龍膽丸ニ鷹ノ羽紋

二一〇三

二一〇三 梓木地萩金蒔繪享保ノ銘アリ

德川時代 一枚

二一〇九

二一〇九 大丸形梓抱一畫、蜀山人筆福祿壽蒔繪韓孝齋作割レアリ

德川時代 一枚

三〇九

三〇九 龜甲指込製、三揚羽蝶彫物、中鍍銀繼銅

三〇〇

三〇〇 足鍍銀指込硝子ノ八重菊蒔

三〇七

三〇七 紫檀生地枝菊ノ金蒔繪

三〇八

三〇八 龜甲製斑入

二七四

二七四 象牙無地兩丸

九七三

九七三 象牙無地兩丸

九七六

九七六 象牙無地兩角

九七七

九七七 真鍮製、散松葉梅花毛彫兩丸

四

九三一

九三一 龜甲製、粉溜入子菱ニ桐ノ蒔繪

九三三

九三三 馬爪製、寶蓋蒔繪

九三六

九三六 龜甲製、粉溜瓦蓋蒔繪

九六六

九六六 龜甲製、秋草蒔繪

以上 久保田米僊氏寄贈

二一〇六

二一〇六 金具張、楡扇ニ橘彩色裏橘畫アリ、其答瑠寬ノ發句黒蒔繪、法橋周本作

同

同 德川時代 一枚

同

同 十枚

二一〇七

二一〇七 梓銀粉溜流シ都鳥螺鈿蒔繪象嵌但シ鳥一ツ脱落、抱一筆、羊遊齋作

同

同 德川時代 一枚

同

同 二十一枚

二一〇九

二一〇九 紫檀地紅葉色蒔繪 銘曰中車作

第四室

德川時代

一枚

第四室

- 九八 笄 眞鍮製、齒染藻毛彫兩丸
- 二、九五〇 簪 ^{カシゲシ} 銀製婚禮用 四本
- 二、九五二 簪 鍍金玉櫛 二本
- 二、九五三 簪 鍍金櫻ニ藥玉 一本
- 二、九五三 簪 鍍金玉蘭 一本
- 二、九五四 簪 鍍金孔雀尾 一本
- 二、九五五 簪 鍍金秋海棠 一本
- 二、九五六 簪 鍍金梅ニ椿 一本
- 二、九五七 簪 鍍金河骨 一本
- 二、九五八 簪 鍍金南天 二本
- 二、九五九 簪 蝶貝尾長島 一本
- 二、九六〇 簪 鍍金牡丹 一本

四六

- 二、九六一 簪 鍍銀牡丹 一本
- 二、九六二 簪 鍍金水仙 一本
- 二、九六三 簪 染貝入牡丹 一本
- 一、六七〇 印籠 ^{インロウ} 檜木地 徳川時代 一個
- 一、六八〇 印籠 傳云、筑前水城ノ堰樋板ヲ以テ作ル。根付子負猿、緒締埋木切子玉。
- 一、六八〇 印籠 徳川時代 一個
- 一、四九七 鏡奩 ^{カミバコ} 黒塗唐草蒔繪 徳川時代 一合
- 三、〇三〇 鏡奩 黒塗紋畫 徳川時代 一合
- 二、八八五 鏡奩 松竹蒔繪裏梨地 徳川時代 一合
- 御巫清白氏出品

二、〇八五 鏡奩 黒塗 徳川時代

一合 吉崎徳太郎氏寄贈

三、〇二二 棗 ^{ナツメ} 宮付 徳川時代

一個

殘月時鳥蒔繪「君はいま駒方あたり」トアリテ、高尾ノ筆意ナリト、高島藍水ノ裏書アリ。

三、〇〇〇 茶杓 ^{チャシヤク} 宮付 徳川時代

一本

煤竹製、竹村寛庵作、共筒紫綸子袋入、木綿更紗袋付、竹村寛庵ハ江戸吉原ノ人ナリ。

二、六六六 平棗 ^{ヒラナツメ} 羽田五良作

一個

大江龍瑞氏寄贈

二、六六七 薄茶茶碗 ^{ウスチャヤチヤワン} (黄樂燒) ^{ラウカヤキ} 十代樂吉左衛門作

一個

上

二、六三〇 水指 ^{ミヅサシ} 新瀬戸 ^{ニッポウセト} 箱書、寶永四年

同

一個

上

第四室

三、三六六 金屬製一輪插 ^{キンゾクセイイチリンサシ}

一基

昭和七年吾米國人メーソン氏、神宮ニ獻備セシモノ。

三、〇六一 手拭掛、手拭 ^{テヌグヒカケ} 徳川時代

三、〇五九 行器 ^{ホカイ} 徳川時代

一合

食物ヲ盛りテ持チ運ブニ用フル器ナリ。

三、〇三三 葛桶 ^{カヅラオケ} 徳川時代

一合

行器ノ一種ニシテ、葛ノ輪ヲ繁ク巻キテ造リシ桶ナルヲ以テノ稱ナリ。

一、四四四 唐櫃 ^{カラヒツ} 舊秋月藩主黒田家藏 徳川時代 一合

八、九七 化粧盥 ^{ケシヤウダラヒ} 湯桶添 黒塗桶唐草松皮 一口

莖文蒔繪徑一尺六寸八分 徳川時代

三、〇四〇 角盥 ^{ツノダラヒ} 黒塗 高七寸六分口径一尺 一組

手ヲ洗ヒ、或ハ齒黒メニ口ヲ嗽クナドニ用フ。後ニハ此ノ角ヲ省キテ耳ヲ付シテ耳盥ト稱ス。

四七

第五室 神宮撤下御物・遷宮關係資料・船舶

◎皇大神宮御料 昭和四年式年遷宮御用

- 一、二七 細辛櫃 朱漆、御弓容器 覆・雨皮・置臺、金銅鎖鑰添 一合
- 一、二六 細辛櫃 朱漆、御太刀容器 覆・雨皮・置臺、金銅鎖鑰添 一合
- 一、二五 辛櫃 黒漆、御裝束容器 切・覆・雨皮・金銅鎖鑰添 一合

◎豊受大神宮御料

- 一、二六 辛櫃 朱漆、金銅御指其他容器 切・覆・雨皮・金銅鎖鑰添 一合

◎皇大神宮御料 大正十一年假殿遷宮調進 昭和四年撤下

- 一、二〇 赤紫綾御蓋 アカムラサキ、アヤノオンガイ 柄・綱・金銅鈴添 一具
- 一、〇一 羅紫御翳 ラムラサキ、オンサンハ 一柄

- 一、〇二 菅御翳 スダ 綱添 一柄
- 一、〇三 菅御笠 柄・綱添 一枚

◎皇大神宮別宮月讀宮御料 明治四十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

- 一、〇三 御鉢 オンホコ 錦鱗添 二竿

◎皇大神宮別宮荒祭宮御料 明治四十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

- 一、〇二 菅御笠 柄・緋綾綱添 一枚

- 九六 日本丸船首龍 木彫 一個

本品ハ日本丸船首ノ龍トシテ、舊鳥羽城ニ傳ハリシモノナリ。蓋日本丸ハ天正十九年鳥羽ノ城主九鬼嘉隆、太閤秀吉ノ命ヲ受ケテ造リ、文祿ノ役ニ從ヒシ軍船ナリ。

三、三三 御遷宮幣帛點檢 (模型) 昭和四年度 (卷首寫眞参照) 一函

奉幣ノ御儀中ニ行ハル、重要ナル行事トス。當日敕使參進ノ途中ニ於テ、御幣物ヲ神宮祭主ニ傳ヘラル、ニツキ、祭主ハ送文ヲ披見ノ後、神官ヲシテ點檢セシメラル。此ノ圖ハ内宮ノ御儀ヲ寫セルモノニシテ、高案ノ上ニ安置セルハ、幣帛ヲ入レタル檜箱、幣帛ノ前方向ツテ左側ニ列立セルハ、敕使以下、右側ハ神宮祭主以下ナリトス。

八三 雛形丸 (模型) 木製 一個

舊鳥羽藩ニ傳來シタルモノニシテ、文祿ノ役ニ從ヒタル同船ヲ、嘉永七年藩命ニヨリテ、水手頭中村傳六・河村傳七ノ兩人、四年ノ星霜ヲ費シテ模造シタルモノナリ。

二、四九 皇大神宮遷宮式 (模型) 明治四十二年度 (卷首寫眞参照) 一函

神宮式年遷宮ハ、二十年毎ニ行ハセラル、御定ニシテ、奉遷敕使參向アリ、渡御ハ夜ヲ以テ行ハセラル。御神體ハ大宮司・少宮司・禰宜之ヲ奉戴シ、絹垣行障ヲ繞ラシ奉リ、奉遷敕使ハ其御前ニ、神宮祭主ハ其ノ御後ニ供奉セラレ、以下ノ神官各其ノ所役ヲ奉シテ前後陣ニ供奉ス。本圖ハ明治四十二年十月二日ノ皇大神宮遷御ノ御儀式ノ一部ヲ謹模シタルモノナリ。

二、六三 神領圖 (模寫) 一軸

寛文以後徳川中世以前ノモノナルベシ。

〇一七九 四方輿 俗ニ塵取輿ト稱ス 一乘

〇三〇四 兩宮御神號 龍尚舍筆 一軸

〇三〇六 神宮法樂歌 冷泉爲村編筆 一軸

〇三二七 神道長歌 御巫清直翁詠 一幅

第六室 古文書・畫圖・典籍・上古其他遺物

神都史料・海運史料

◎角屋家文書

角屋七郎次郎氏出品

天正年間伊勢大湊二角屋七郎次郎トイフ者アリ、小田原北條家ト濱松松平家トノ爲ニ海上通路ヲ開キ、屢其ノ用ヲ達セリ。本能寺ノ變、徳川家康一揆ニ襲ハレ、逃レテ伊勢白子若松浦ニ到ルヤ、七郎次郎之ヲ船底ニ隠シテ危念ヲ救ヒシ功ヲ以テ、子孫代々朱印船ヲ許サレテ諸國ニ航行セリ。七郎次郎ノ孫七郎兵衛安南航海ヲ企テ、元和元年八月八幡丸ヲ載シテ彼ノ地ニ渡リ、土人ヲ娶リテ日本街ニ寺院ヲ設立シ、松本寺ト名ヅク。蓋松本ハ其ノ本姓ナリ。爾來支那沿海ヨリ安南交趾ニ通商貿易セリ。

二〇二九 大儉約誓詞 四通

白子神社出品

米澤城主上杉治憲公(鷹山)、領内ノ衰微ヲ慨キ、中興ノ實ヲ擧ゲント欲シ、明和四年九月六日、米澤城鎮護ノ神ト崇メラル、同地白子神社ニ、大儉約ノ誓詞(一、〇一九號ノ一)ヲ奉シ祈願シタルモノニシテ、是ニ對シ、同月十三日老臣色部典膳(長)ガ贊同ノ血判誓詞(一、〇一九號ノ二)ヲ捧ゲ、同時ニ治憲公ハ色部典膳ガ大儉約ニ同意シタルヲ以テ、一般國民モ同様ニ誓ヲナスモノナリトテ血判シ、更ニ神明ニ誓ヒ、次イテ支封上杉駿河守モ同心シ、同年十一月十一日同様ニ誓詞ヲ捧ゲタルモノナリ。

二〇三 小笠原越中守文書

一軸

角屋七郎次郎氏出品

一七 徳川家康筆蹟

一軸

傳、角屋七郎兵衛ガ徳川家康ヨリ拜領セシモノ。

一九九 天正三年四月北條氏政朱印

一卷

俗ニ「虎ノ御朱印」ト稱スルモノ、小田原北條氏政ノ依囑ニヨリ、角屋七郎次郎其ノ使者ヲ伊勢神宮ト愛宕神社トニ奉納物ノ使ニ裝ハシメ、濱松ナル松平氏トノ間ニ海路連絡ヲ圖リシトキノモノナリ。

一八四 徳川家康朱印

天正十年八月(卷首寫) 一卷

印文「福德」(眞參照) 一卷

二〇一 船戰秘書

一卷

同

第六室

二〇一九 連年國家衰微民人相泥候因大儉相行中興仕度祈願仕候決斷若於相念忽可蒙神罰者也

明和四丁亥年九月六日 藤治憲敬白(花押)

二〇一九 此度大儉約罷仰候所拙者儀御尤奉存候尤同役兎角申聞候共職申間敷候尤國民不相泥様可仕候此儀若於相違仕忽可蒙神罰候仍如件

明和四丁亥年九月十三日 色部典膳 照長(花押)

二〇三三 弘安五年院宣

一通

本書ハ左京職ノ者、佛名院ノ寺領ヲ犯スヲ以テ、院宣ヲ下シテ其妨ヲ止メラレシモノナリ。

二〇三六 正和四年八月十四日安堵狀

一通

僧侶ノ遺跡讓與ニ關スル安堵狀ニシテ、署名ノ相模守ハ北條基時、武藏守ハ北條貞顯ナリ。安堵トハ武家時代ニ於テ土地ノ所有權ヲ承認スルヲ云フ。

第六室

徳川時代ニ於ケル海上船營ノ圖ニシテ、船艦用法・船營法・敵地ノ海上ヲ押行法・往還ノ船ヲ留ムル法・主船法・客船法等ヲ記シタルモノナリ。裏書船中物見外朱書アリ。

二六 角屋近親諸方來狀

同

一卷

上

世ニ「じやがたらふみ」ト稱スルモノニシテ、女子假名文ナリ。徳川時代初期
長崎年曆、兩面、觀ノ元祿七年ノ條ニ咬嚼吧おはる死ス。流人ノ時十四歳ナリ。文通ノ時十六歳ナリ。今年七十一歳ナラントアリ。生ハ、寛永元年、流人ノ時ハ同十四年ニシテ、島原將四郎以下二人ノ首ヲ、出島ニテ梟首シタル年ナリ。去ル十二年邪宗門切手改始リ、昨十三年南蠻混血兒二百八十七名流罪トナリ、十四年六月上旬南蠻船ノ出帆ニ伴ハレ、榑原飛騨守及ビ

三三

豊宮崎文庫表門額 文「豊宮崎文庫」 一面
永田善齋書

豊宮崎文庫ハ、豊受大神宮宮城ノ東、豊宮崎(岡本町)ニ在リ。慶安元年、外宮ノ祠官出口延佳・與村弘正等相謀リ、資財ヲ出シテ創建セシモノナリ。萬治三年幕府ヨリ修繕費トシテ、米二十斛ノ采地寄附アリ、尋テ貴紳等ヨリ珍籍ヲ寄贈スルモノ多ク、爲ニ藏書數萬卷ニ及ベリ。明治十一年火災ニ罹リ、講堂等烏有ニ歸セシガ、圖書ハ幸ニ其ノ災ヲ免ルチ得、後神苑會ノ手ニ歸シ、明治四十四年十一月同會ヨリ神宮司廳ニ寄贈シ、今神宮文庫ニ保存ス。書庫其他舊跡ハ私人ノ有ニ歸セリ。

七四 渾天儀

一基

二二七 地球儀

一基

元祿年間、保井算哲之ヲ著作シ、内宮文殿ニ奉納シタルモノナリ。恐ラク邦人ノ手ニ成リシ地球儀ノ最初ノモノナルベシ。

二二六 天球儀

一基

保井算哲(澁川春海)ノ著作ニ係リ、元祿年間、之ニ天文瓊統八册ヲ添ヘテ、内宮文殿ニ奉納セリ。天文瓊統ハ、現ニ神宮文庫ニ保管セリ。

二二七 陶印

一顆

印文「神風館印」
神風館ハ神都伊壇ノ一系統ニシテ、第一世足代弘氏ニ始マリ、第二世弘員・第三世涼菟等、相傳ヘテ第十七世ニ至ル。

三六 伊勢新名所歌合繪

一卷

下卷著色
此ノ歌合ハ、後宇多天皇弘安九年ノ頃、祭主定忠・荒木田・度會兩姓ノ神主及ビ釋氏等相會シ、山

二〇六 船板

一枚

上

馬場三郎衛門ノ監視ノ許ニ、長崎ヲ遂放セラレ。コノ手簡ハ寛永十六年(はる十六歳)和蘭船ノ來ルニ託シタルモノト云フ。

二〇五 文庫

一個

上

御朱印船ガ紀州熊野ヘ著キ砌、同地ノ船奉行彦坂九兵衛ノ檢閱ヲ經タルモノニシテ、其ノ名ト花押アルモノナリ。

二〇四 小鉢

五枚

上

二〇三 平皿

十枚

上

二〇二 梅花皮鞘鮫

一枚

上

二〇一 風爐

一個

同

第六室

第六室

何レモ安南産ニシテ、當時ノ交易品ナリ。

一七 安南國往復書翰 一卷 同上

徳川時代初期、角屋七郎兵衛ガ安南國ヨリ本國ヘ通信セル文書ヲ蒐集セシモノナリ。

一八 香木孔子像 一體 同上

安南産、降眞木ト稱スル香木ノ彫刻ニシテ、京都原田勘彌門人小濱梅度作ノ銘アリ。

一九 航海圖 獸皮製 一枚 同上

徳川時代初期、角屋七郎兵衛ガ安南航海ノ節、用ヒタル東洋ノ海圖ナリト云フ。日本ヨリ安南マデノ航路ヲ示スルニシテ、既ニ世ニ知ラレタルモノニ傳ハリシモノニシテ、此ノ種ノ草製航海圖ハ葡人來航以來我國ニハアリ。

此ノ種ノ草製航海圖ハ葡人來航以來我國ニ傳ハリシモノニシテ、既ニ世ニ知ラレタルモノニ

東京帝室博物館藏五枚、大阪末吉氏ノ藏一枚、松阪角屋氏藏一枚トノ數種ニ過ギズ、何レモ徳川時代初期ニシテ、慶長・元和・寛永ノ交ニ用ヒラレタルモノナリ。

二〇 船旗 五旛ノ内 同上

御朱印船八幡丸ニ掲揚セシモノニシテ、明治三十八年七月十一日東京帝國大學卒業式ノ節、天覽ニ供シ、辻史料編纂官ヨリ、徳川時代初世ニ於テ、外國交通ノ盛ナリシヲ、詳細ニ言上スル資料トセシモノナリ。

二一 土茶釜 一個 今井藤吉氏寄贈

本品ハ伊雜宮參詣道、舊家立茶屋ガ、旅客ノ接待ニ用ヒタリト言傳フ。

二二 古酒壺 一個 八田友太郎氏出品

第六室

五

田及比山田附近ニ於テ新ニ名所十ヶ所ヲ選定シテ詠吟セシモノナリ。判詞ハ冷泉爲家ニシテ、和歌ノ筆者ハ冷泉爲相、畫ハ藤原隆相筆ナリトイフ。因ニ此繪卷ハ廣島大本營ニ於テ明治天皇ノ天覽ニ供セシモノナリ。

二三 中臣祓 河邊精長筆 一卷 上田宰吉氏寄贈

奥書、寛文元年五月吉日 大宮司精長(花押)

二四 二見文臺 桐材 一脚

麥林舍乙由ノ好ニヨリテ作りシモノナリ。表ニ二見立石ト扇子ニ梅ヲ描キ、裏ニ「二見から蒔繪やつ、門の松」麥林(花押)ノ句ヲ書ス。

二五 二見文臺 桐材 一脚 菟田茂丸氏出品

表ニ二見立石ト扇面ノ畫アリ、裏ニ「疑ふなうしほの花も浦のはる」元祿二由春芭蕉トアリ。

二六 古文尙書 豊宮崎文庫舊藏、鎌倉時代 十三卷

貞享元年島原城主松平忠房ノ奉納セルモノニシテ、仁平・應保・建長・正和ノ校點奥書アリ。

仁平元年六月二十五日申刻、以少納言入道摺本之釋文見合了、總州之御時、以古本並唐本釋文書被付音義也、然而依有不審事、重所校合、古本勸物雖有委細事付、今委之摺本合點畢、不裁摺本勸物付輪應保二年四月二十六日見合或古本了、仲書江家之摺本也、披合之處其可取之事有數、仍一部所校合也

建保六年七月九日授仲光了、在御判建長第八層晚春十一日書點了至此書者以摺本書寫之、以古本校點之、凡虞夏商周書者壁中舊本隸古之遺字也、雖然改古字爲今字唐本又加此其上

高倉上皇御讀之本又如此歟、當家尤可用之哉、但古字之體一向不可失之仍本用今字傍附古字者也、一部十三卷五十八篇、雖爲一字半字不借他人之手、偏至墨點朱點、皆用自身之功、子々孫々深細慶内令、不出闕外也、清原正和第三層孟夏初五日以家之秘說授申生德才子、以十一代之學業終十三卷之詰訓、當時希有書也

第六室

元菊御園神役人酒作忠大夫所持ノ酒壺ナリ。

二二八〇

不見物獻進櫃

御用提灯添 一荷

下社楠五郎氏出品
外三名連名

東宮ハ元土具又ハ土貢ニ作り、志摩國英虞郡ニ屬
セリ。神風抄神領目錄ニ「土具御厨」ト稱シ、
毎年神宮月次祭・神嘗祭・由貴大御饌ニ祭典御料
トシテ、貢物ヲ奉ル。之ヲ不見物（不見物トハ秘
密物ナニ云フ）ト云フ。明治四年神宮制度御改正迄
之ヲ行ヘリ。古昔ハ神役人ト稱シ、十家ニテ奉仕
セシテ、現今ハ右四家ノミ存在ス。此ノ櫃ハ其ノ
奉仕ニ當リ、不見物進獻ニ用ヒタル容器ナリ。

二二四〇

御蔭群參圖

田中易慎筆 一卷

寶永三年・明和八年・文政十三年・安政二年・慶應
三年等ニ、諸國ニ於テ大神宮ノ神異アリトテ、拔參

ノ道者群集セリ。コレ所謂御蔭參ナリ。本圖ハ
文政十三年ノ御蔭參ニシテ、宮川渡場ノ雜踏セシ
光景ヲ描寫セシモノナリ。

三二五〇

關所門鑑

覆袋添 一枚

杉本德兵衛氏寄贈

三二五三

伊勢參宮手形 一通 同

上

三二八三

小田橋擬寶珠 高一尺九寸三分 四個

寬永十八年春日局ノ寄進ニナリシモノナリ。

在銘 奉修造大神宮小田橋 願主 春日局

大工勢州飯野郡御鑄師踏路天命作

寬永十八年己未十二月吉日

爾後造替毎ニ寄進者ノ氏名及造替年月日ヲ順次刻
セリ。

第六室

英

明經得業生 清原長隆
古文尙書合部十三卷、花園帝正和年中、明經得業
生清原長隆以家之秘說所加訓點也、手書曰以十一
代之學業終十三卷之詰訓當時希有者也、且末書所
謂少納言入道者藤原信西也、所謂總州者助教直講
定康乎、清原世々傳授秘本明々昭々余偶得之珍藏
有年、然今以爲希代之物奉納勢州大神宮文庫、而
貽萬世洪寶表方寸微忱也、唯冀神之靈永垂鏡照、
謹啟一語以爲後證
貞享元年甲子夏四月上旬
島原城主從四位下主殿頭源忠房

陶器

上古時代

上古ノ燒物ニハ陶器ト土器トアリ、陶器ハ古ク「イ
エ」ノうつはもの「トイヒシモノ」ニシテ、其製法、
初メ朝鮮半島ヨリ傳ハリシモノナルベシ。其ノ
形狀ニヨリテ瓶・罎・甕・鉢・盃・盥等ノ別アリ。

二四〇八

小柑付瓿

裝飾付壺一、四〇九號ノ上ニ裝置ス
一個

二四〇九

裝飾付壺

筑前早良郡金武村大字羽根戸發掘
一個

二四一〇

脚付罎

小柑付
一個
筑前糸島郡怡土村大字井原發掘

二四一一

三脚付罎

一個

二四一八

提瓶

袋形
一個

提瓶ハ、酒・水等ノ飲料ヲ携帶スルニ用ヒタルモノ
ナレバ、形扁平ナリ。兩肩ニ鐵環ニ狀ノ耳アリテ
紐ヲ著クルニ便セルハ、其ノ最完備セルモノニ
シテ、鉤狀ノ耳アルハ、稍省略セルモノナルベ
ク、單二瘤狀ノ耳アルハ、原意ノ名殘ヲ留メタ
ルモノナリ。而シテ本品ハ其ノ痕跡ヲモ留メズ。

二四一六

甕

雙環耳付
一個
筑前糸島郡櫻井村發掘

第六室

三、二四 外宮第一鳥居口御橋擬寶珠 一個

高一尺六寸七分、徑九寸四分、
重量三貫五百八十七匁

銘 大神宮 永代奉寄進一ノ鳥居御橋

願主 京室町山村吉衛門忠直

延寶三乙丑年九月吉日

造營料下馬所附前野御大工蛸路天命作

三、二五 内宮裏參道口御橋擬寶珠 一個

高一尺九寸五分、徑九寸五分、
重量三貫九百六十匁

三、二九 風日祈宮御橋擬寶珠 二個

高二尺一寸、徑一尺一寸三分、
重量四貫六百匁

高二尺一寸、徑一尺一寸三分、
重量四貫三百三十五匁

銘 天照皇大神宮 奉行山口丹波守

嘉永六癸丑年六月吉日

御鑄師 蛸路住 常保河内作

三、三二 内宮第一鳥居口御橋擬寶珠 一個

天

一、四六 長頸埴 一個

一、四七 横瓮 一個

一、三九 脚付長頸埴 一個

豊前京都郡馬ヶ嶽發掘

一、四〇 埴 一個

埴ハ壺ニ同シ、盤ノ口窄マリタルチ云フ。

一、四〇 平瓶 雙環耳付 一個

平瓶ハ正シク訓メバ「ひたいかめ」ニシテ、平居瓶ノ意ナリ。

三、〇〇 横瓮 一個

御巫清白氏出品

一、一七 提瓶 雙鉤耳付 一個

間宮兵吉氏寄贈

高二尺一寸九分、徑一尺八分、
重量五貫九百三十五匁
銘 奉行金森山城守源可充
天保四癸巳年三月吉日
御鑄物師 蛸路住 常保河内作
銘筆者ハ四福宜荒木田氏養ニシテ、天保四年三月吉日、當時清切替、初メテ火除橋架設サレタリト孫福氏ノ記録ニ見ユ。

三、八九 伊勢參宮風俗圖 橋本鳴泉筆 五軸

第一圖 宮川 西岸小 俣村附近ノ光景

垂仁天皇ノ二十六年、五十鈴川上ニ大宮地ヲ定メラレ、天照皇大神ノ御鎮座アリテヨリ、一代ノ思出ニ一度親シク神前ニ至誠ヲ捧ゲント、諸國ヨリ參宮人ノ集ヒ來ルコト、昔モ今モ異ナラズ、糧食ヲ携帶シテ旅行セシ未開時代ノコトハ更ニモイハズ、徳川時代交通ノ便、漸ク開ケシ頃ト雖、之ヲ交通機關ノ具備セル今日ニ比スレバ、其ノ旅行ノ難易思

第六室

天

一、四四 埴 横瓮形 一個

埴ハ口擴リテ漏斗狀チナシ、身ノ側面ニ孔アリ、コノ孔ハ竹管ヲ挿入シタルトコロナリ。

一、四九 長頸埴 絲底付 一個

遠江濱名郡赤佐村字根堅發掘

一、四〇 脚付埴 素燒 一個

中西弘武氏寄贈

一、二七 脚付長頸埴 一個

一、三六 脚付埴 一個

一、四三 高坏 蓋缺 一個

一、四〇 子持高坏 一個

筑前糸島郡怡土村字東發掘

第六室

ヒ知ルベシ。本圖ハ維新前ニ於ケル伊勢參宮道中ノ風俗ヲ描キタルモノ、一ナリトス。

第二圖

宮川渡船場ノ光景

トコトミタイカフシユインシヤウトコトミタイカフシユインシヤウ豊臣太閤ノ朱印狀ニ、從宮川内之儀太神宮爲敷地條云云トアルガ如ク、宮川ヲ渡レバ即チ神境ナリ。サレバ敎使ハ此處ニテ川原祓(現今宮川東岸)ノ行事アリ。徳川將軍名代ノ參宮ニモ、此處ニテ垢離齋ノ式ヲ行ヒ、諸國ノ參宮人モコレニ倣ヒテ垢離ヲ行ヒシガ、後ニハ代垢離ト稱シ、金錢ヲ乞ヒテ代リ行フモノ出テ來リ、終ニハ水中ニ潜リテ、旅人ノ投ケシ金錢ヲ拾フナド、一種ノ餘興トハナレリ。今ハソレモ廢レテ影ヲトメズ。

第三圖

中川原ノ光景

中川原ハ、宮川ノ東岸即チ神都ノ入口ナリ。

リ。旅店相竝ビ、御師(第四圖ニ説明ス)ハコ、ニ用達所ヲ置キ、檀家ノ參宮道者ヲ此處ニ出迎フ。參宮ノ旅人此處ニ到レバ、則チ旅裝ヲ解キ、或ハ清メ、月代チナス等、心身ヲ改メ、而シテ後神境ニ入ルノ習俗ナリキ。

第四圖

御師邸ノ光景

明治以前ハ、宇治山田市内ニ多數ノ御師(明治四年廢セラレ)ト稱スルモノアリ。何レモ何々大夫ト名ノリ、壯大ナル邸宅ヲ構ヘ、諸國ニ檀家ヲ有シ、檀家ノ爲ニ祈禱奉賽ヲ行ヒ、又檀家ノ者參宮ニ當リテハ、御師ノ邸ニ宿泊シ、其案内ニヨリテ參拜スルヲ例トセリ。公卿諸侯ヨリ、庶人ニ至ルマテ、然ラザルハナシ。今日旅館ノ軒頭ニ、何々大夫ト稱スル標札ヲ見ルハ、其ノ名殘ヲ留ムルモノナリ。

第六室

各

一、二〇 大高環

筑前早良郡金武村大字羽根戸發掘

一個

一、四六 脚付埴

一個

一、二五 脚付盤

一個

山邊光一氏寄贈

盤ハ埴トモ書ス。即チ椀ニ同シ。其ノ形球狀ニ近ク坏ヨリ深シ。

一、三〇 高環

一個

雙耳付蓋添
蓋ニハ、鈕アルモノトナキモノトアリ、鈕ニモ種々ノ様式アリ。

一、二七 提瓶

一個

間宮兵吉氏寄贈

一、三〇 提瓶

一個

一、四八 高環

一個

一、四九 長頸埴

一個

一、三三 碌

一個

◎ 石器時代遺物

日本太古ノ住民ガ、石器時代即チ太古石器ヲ使用セシ時代ニ作りタル利器其他ノ石器ナリ。是等住民ノ日本人ト異ナリタルハ明カナルモ、未ダ何人種ナリト確言スルヲ得ズ。サレド極北地方現存ノ住民タルスナキも一ニ似タリ。

一、九三 打製石斧

三個

中野眞筋氏寄贈

打缺キテ双ヲ作りタルヲ打製石斧トイフ。

一、八〇 磨製石斧

五個

六二

第六室

第五圖 宇治橋網受ノ光景

織田信長ノ家臣、鳥屋尾左京ト云フ者、主家滅亡後、他家ニ仕フルヲ辭トセズ、浪人シテ此地ニ來リ住ミ、竹竿ノ先ニ編笠ヲ附ケタルヲ持チテ、宇治橋ノ下ニ出テ、橋上ノ參宮人ニ錢ヲ請ヒ、ソレヲ受留ムルニ、百ニ一モ受ケ損ズルコトナク、大ニ諸人ノ興味ヲカヘリ。後人笠ニ代フルニ糸網ヲ以テシ、終ニ參宮餘興ノ一トナリシガ、近年ニ至リテ廢止セラル。

二四二 宇治橋投錢受網

一個

四 永仁六年宣旨 一卷

光明寺出品

光明寺ハ、宇治山田市岩淵町前田ニ在リ。天平十四年聖武天皇ノ敕ニヨリテ、草創セラレシ天台眞言兼宗ノ敕願所タリシガ、後醍醐天皇ノ元應年間、時ノ住僧惠觀之ヲ禪宗ニ改ム。モ

七 北畠親房下知狀 一卷

光明寺出品

ト度會郡前山(現今宮本村)ニ在リシガ、何時ノ頃カ、山田吹上ニ移シ、寛文年間火災ニ罹リ、今ノ地ニ再築セリ。惠觀ハ月波禪師ト稱ス。南朝ノ忠臣結城宗廣ノ親戚タリシ故ヲ以テ、宗廣自筆ノ軍中日記及令室ノ書簡等ヲ什襲セリ。軍中日記ハ、徳川光圀大日本史ニ「光明寺殘篇」トシテ收録セシモノ即チコレナリ。

三 結城入道及令室書翰 國寶 一卷

同上

二六 豊臣秀吉朱印

一卷

第六室

空

研磨キテヌチ作りタルヲ磨製石斧トイフ。

一九六〇 石斧ノ種類

二個

一四〇 石庖丁

一個

一五 錘石

一個

下總香取郡貝塚村發見

五六 粗製石匙

一個

石匙ハ、形ニヨリテカク稱スレドモ、鳥獸ノ皮ヲ剥ク時ナドニ用フルモノナリ。

一八三 扇形石匙

六個

一八四 石棒

一個

筑前生葉郡發見

一九五 石槍

五個

大小精粗類品多ク、其ノ用モ一様ナラズ、コノ小ニシテ精ナルアリ。恐ラクハ護身器トシテ用ヒラレシモノナラン。おすまらりや土人ハ現ニ此ノ如キモノヲ使用ス。

一八〇 獨鈷石

二個

獨鈷石ハ形ニヨリテ名ヅケタルモノニシテ、一種ノ武器ナラン。

五〇 石錐

八個

出所 日高峯郡小越村シママラシ 獸皮ヲ綴リテ、衣服其ノ他ノモノヲ作ル場合、又ハ土器ノ破レタルヲ修復スル場合ニ、錐ノ用ニ供シタリト見ユ。小玉ニ孔ヲ穿ツニ用ヒシ證アリ。

空

第六室

光明寺出品

光明寺ノ古鐘ハ、後深草天皇ノ御代、常磐井入道實氏ノ寄附セシモノト云ヘリ。古來神境ニ於テハ、梵鐘ヲ撞クコトヲ禁止セラレシガ、豊臣氏ノ時、寺僧部宰上部越中守ニ慈訴シ、遂ニ特許ヲ得テ、毎日二回之ヲ撞クコト、ナレリ。本文書ハ即之ナリ。

二六三 結城宗廣軍中日記 國寶 一卷 上 (卷首寫眞参照)

二六二 足利義滿御教書 應安四年八月 一卷 上

二六五 僧惠觀勸進狀 一卷 上

惠觀ハ月波上人ト稱シ、光明寺ノ住職タリ。世ニ結城宗廣ノ遺子ト稱セラル。南朝ノ爲ニ盡セルコト多シ。

二六九 經筒 國寶 (土製) 一口 世義寺出品

銘文敬白奉施入如法經筒一口 右志者爲教豪尊靈出離生死頓證菩提施入如右敬白 治承二年七月十二日造之

願主 僧寬喜 造手 藤井成重 敬白

經筒ハ、經卷ノ容器ナリ。祈願ニ際シ、經文ヲ手寫シテ、土中ニ埋藏スルコト、藤原時代以來行ハル、トコロニシテ、多クハ經卷ヲ筒中ニ納メタリ。本品ハ土燒ナレドモ、銅製ノモノ最モ多ク、鐵製ノモノ亦往々ニ存ス。

二六八 内行花紋鏡 破損、上古前期 白銅製、長宜子孫ノ銘アリ 一面 豊前仲津郡(村名不詳)發掘

二六九 双獸鏡 上古時代、白銅製 一面 伊勢飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘

二七〇 内行花紋鏡 上古時代、白銅製 一面 第六室

一八五 木葉形石匙 九個

一八九 石鏃 八個

二九二 土器破片 (底部ノ種類) 五個 (一) 臺ノ高キモノ (二) 臺ノ低キモノ (三) 木ノ葉ノ跡アルモノ (四) 筥ニテ磨リ均シタルモノ (五) 網代形ノ跡アルモノ

一八六 土器 一個 常陸稻敷郡福田發見

一八七 土器 一個 陸奥三戸郡和名井村發見

二八二 荒木田守武辭世ノ歌 一幅

ハフラクセンシユ、エイサクヘウシウラ、法樂千首ノ詠、草ノ表紙裏ニ書キツケアリシテ、表、裝セシモノナリ。「つゝゐに行道を心にこころへはこたへやらのそをしへなるらん」外ニ首ヲ記セリ。守武、本姓ハ荒木田、文明十六年内宮願宜ニ補セラ

二八三 荒木田守武消息文 二幅ノ内

二八四 世の中百首 荒木田守武自筆 一卷

世の中百首ハ、大永五年九月庚申ノ夜、一夜ニ守武ガ詠出シタル教訓歌ニシテ、伊勢論語ト稱セラル。

二八九 法樂發句集 荒木田守武自筆 一冊 永正第五正月ノ署名アリ。

二九〇 秋津州千句 荒木田守武自筆 一冊

二九五 飛梅千句 荒木田守武自筆 一冊

内題「俳諧之連歌」第一句「飛梅やかなろくしくも神の春」奥書ニ「天文九年しくれふるよは」トアリ。

第六室

- 二七〇 四獸鏡 上古時代、白銅製 一面
- 伊勢飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘
- 二七二 八獸鏡 破損、上古時代、白銅製 一面
- 二七三 乳紋鏡 上古時代、白銅製 一面
- 二七四 乳紋鏡 牛缺失、上古時代、白銅製 一面
- 以上 飯南郡松尾村立野發掘
- 二七五 變形四獸鏡 上古時代、白銅製 一面
- 二七六 乳紋鏡 同上 一面
- 二七七 變形獸帶鏡 同上 一面
- 以上 飯南郡朝見村大塚出土
- 二七八 變形四獸鏡 上古時代、白銅製 一面
- 同上 上佐久米區出品
- 二七九 六鈴鏡 破損、上古後期、白銅製 一面
- 二八〇 三獸鏡 破損、上古時代、白銅製 一面

突

- 二九三 日記斷片 荒木田守武自筆 一綴
- 冠下 張紙ニ認メタルモノニシテ、主トシテ家事ニ關スル日記ナリ。
- 二八六 法樂千首 荒木田守武自筆 一冊
- 奥書ニ「右法樂千首大永二年自七月下旬至長月十日詠之」トアリ。
- 三三七 伊勢兩宮繪圖 一卷
- 本圖ハ、寛文年間ニ於ケル宮川ヨリ兩宮ヲ經テ、朝熊山・二見浦ニ至ル極彩色ノ參宮道中繪卷物ナリ。全長四十八尺六寸、巾一尺三寸七分、筆者不詳。
- 四六 虎丸步障繪 著色 傳狩野永徳筆 一幅
- 二六一 男衾三郎物語繪 (模寫著色) 一卷
- 二九〇 羽柴越前(伊達)政宗書狀 一通
- 二九六 正和四年八月十四日安堵狀 一通

以上 筑前糸島郡周船寺村大字飯氏發掘

二五〇 三輪玉 石英製

三輪玉ノ名ハ、一般ニ用ヒラルレドモ、同ヨリ尋常ノ玉類ニ屬スベカラズ。ソノ形前掲ノ金具ニ類スルヲ以テ、コ、ニ陳列シテ比較ニ便ナラシム。

四七 銅器殘片

靜岡縣濱名郡赤佐村根堅發掘

二六一 銅椀殘片

靜岡縣濱名郡赤佐村根堅發掘

二七〇 金具 銅質鍍金製

靜岡縣濱名郡赤佐村根堅發掘

二七二 座金付鈺 表面銅質鍍金

靜岡縣濱名郡赤佐村根堅發掘

二九〇 金管 銅質鍍金製

靜岡縣濱名郡赤佐村根堅發掘

二九一 鈺 表面銅質鍍金

靜岡縣濱名郡赤佐村根堅發掘

第六室

空

- 二九三 慶徳麗女道歌 一冊
- 三三二 源氏物語繪 一卷
- 一四〇 祇園祭繪 極彩色 一卷
- 二六七 元祿時代風俗畫 極彩色 一幅
- 傳、養川師房筆
- 三十二 類繪 模寫 三卷
- 三七 京都大佛供養圖屏風 極彩色 一雙
- 三三五 明和度いせ參宮御蔭之日記 一冊
- 森靈仙記
- 三三三 楓の落葉 荒木田久老筆 一冊
- 三三〇 上部家文書 三十四種
- 三二九 永正十四年伊勢御師且所沾券 一通
- 二八四 伊勢曆由來書 一通

- 一三五 金裝具 純金製 一個
- 一三五 銅裝具殘片 鍍金製 三個
- 一四二 銅裝具 鍍金 二個
- 一三六 一三九七ノ三 銅釧 五個
- 一三九 一三九九

銅トハ、手頭ヲ飾レルモノニシテ、ソノ玉ヲ貫ケル緒ヨリ成レルヲ玉釧ト稱シ、古史ニ往々見ユ。銅ニテ成レルヲ銅釧ト云ヒ、銅釧ノ周邊ニ若干ノ鈴ヲ鑄著ケタルヲ、鈴釧ト名ヅク。鈴釧ノ名、古史ニ所見ナシト雖、手鈴トイヘルモノ、蓋是ナルベシ。

- 一九四 貝輪 四個 大井田義路氏寄贈
- 一三〇 車輪石 碧玉岩製 二個

山城綴喜郡草内村大字飯岡發掘

- 一三九 鍬形石 碧玉岩製、俗稱狐鍬石 一個

車輪石ト鍬形石トハ、其ノ用法 詳ナラザレドモ、貝殼ニテ造リシ裝飾具ノ變遷セシモノナルベク、惟フニ釧ニ關係アラシ。

- 一四四 金銀 二十二個 一函
- 一三九 銀銀 二十五個 一函
- 一四四 銅銀 二個 二個

銅ニテ造レル表面チ、金ニテ包メルヲ金銀トイヒ、銀ニテ包メルヲ銀銀トイフ。稀ニハ中空ノ金銀銀モアリ、是等銀ノ所用、未ダ悉ク明カナラザレドモ、中ニハ耳環ニ用ヒタルモアルベク、太刀ノ足金物ニ著ケタルモアリ。

- 一四六 金銅器殘缺 上古時代 七鈴付唐草等ノ透彫模様アリ

- 〇九七五 明應八年相物座沽券 一通
- 〇九七六 天文七年鹽濱沽券 一通
- 〇一〇一 櫛屋看板 一枚 加藤齋藏氏出品
- 傳恩堂和尚書 文「くしや彌九郎」
- 〇一〇七 度會氏元德系譜 一卷
- 〇一〇八 有栖川宮熾仁親王御懷紙 一軸
- 〇一〇九 牛谷坂開鑿圖 一卷
- 〇一一三 宮錢(鳩目錢)五枚 加藤秀雄氏出品
- 〇一二 後醍醐天皇宸影 模寫額裝 一面
- 〇一三 屏風鳥毛立女圖 模寫額裝 三面
- 〇一四 聖德太子御畫像 模寫額裝 一面
- 〇一五 法隆寺玉蟲厨子畫 模寫額裝 四面

- 〇一三 神代文字 拓本 二枚
- 〇一七 楠公首塚碑 拓本 一枚
- 〇一七 清順上人消息 一通 世義寺出品
- 〇一四 鐺 鐵製 一個
- 〇一四八 太刀柄頭付屬鴨目 金銅製 一個
- 〇一六 馬具雲珠 金銅製 一個
- 〇一六九 鞍 殘片 一個
- 〇一四三 馬鐸 青銅製、破損 一個
- 〇一六 食物製用具 一個
- 〇一八七 小玉 七個
- 〇二〇八 土器 把手種類 六個
- 〇二一〇 土器 一個

靜岡縣濱名郡赤佐村字根堅發掘

二二九四 勾玉砥石

二個

出雲八東郡玉湯村湯町發見

二二七七 勾玉 碧玉岩製

一個

伊勢飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘

玉類ノ裝飾ハ、上古ニ於テ盛ニ行ハレタリ。其

ノ頭部ヲ飾レルヲ玉トイヒ、手頭ノ邊ヲ飾レル

ヲ手玉トイフ。脚部ナルヲ脚玉トイヘリ。勾玉

以下スベテ當時ノ遺物ニシテ、之ヲ著裝スルニ、

細ニ貫キテ用ヒタルナリ。

勾玉ハ、上古ノ玉類中、最モ著シキモノニシテ、

其ノ起源ハ、未開ノ代ニハ獸類ノ牙或ハ寶玉等ニ

細ニ貫キテ裝飾トシタルニアリ。勾玉ノ名ハ實ニ

其形ニ見ルモノナリ。

管玉モ、ソノ形ニヨリテ稱ヘタル名ニシテ、古史

ニ竹玉トイヘルモノ、一種ナルベシ。實ハ十中八

九マテ碧玉岩ナリ。

二二〇九 管玉 碧玉岩製

五個

二二〇二 切子玉 水晶製

十五個

二二〇四 丸玉 縞瑛瑠製

二個

二二〇四 白玉 滑石製

十一個

伊勢度會郡神路山發見

二二四二 鐵銚身 上古時代

一本

上野碓氷郡原市町大字原市發掘

二二五七 鐵銚身及同殘缺 上古時代

二本

二二六九 砥石 上古時代

一個

二二六六 石製鏃 上古時代

三個

近江野洲郡天王山發掘

〇 五三二 土器

一個

〇 三三三 土器

一個

〇 二〇七 土器破片 (裝飾ノ種類)

三個

〇 二〇四 土器破片 (裝飾ノ種類)

六個

〇 二〇五 土器破片 (裝飾ノ種類)

七個

〇 二〇九 土器破片 (底部ノ種類)

五個

〇 一八七 土器ノ底部ヲ飾リタルモノ

一個

〇 一八五 土器破片 (廢物利用)

二個

〇 一八六 貝塚發見ノ貝

八個

〇 一九五 貝輪破片

一個

〇 一八九 角器

二個

〇 一八七〇 骨器

五個

〇 五九 土偶

一個

〇 五六〇 土偶頭

一個

〇 五六一 土偶胴

一個

〇 五三二 土偶頭部

一個

第六室

- 一五五 銅鏃 上古時代 一個
- 一六四 鐵鏃 上古時代 一個
- 一六六 馬具杏葉 金銅鳳凰透模樣 奈良時代 一個
杏葉ハ、胸懸・尻懸等ニ垂下セル飾装ニシテ、
 板ノ如ク、其ノ形種々アリ、杏葉ノ名ハ、
 中古後ノ飾馬ニ用ヒルトコロノ形ニヨリテ稱セル
 ナリ。
- 一五七 馬具杏葉 金銅唐草模樣透彫 一個
- 一八四 轡鏡板及殘片 鐵地、金銅張 三個
鏡板トハ、轡ノ兩側ニアル板ナリ。上古ニアリテ
 ハ、其形種々アリシガ、近世ハ多ク丸二十字形ヲ
 用ヒタリ。
- 一六〇 轡鏡板 破損、金銅製、唐草透模樣 一個
- 七三 太刀 上古時代 一振

三

一六一 太刀殘缺 上古時代 金銅金具 一口

筑前怡土郡(村名不詳)發掘
 上古ノ刀身ハ、眞直ニシテ、殆ド反ナク、平作ニ
 シテ、鎧ナキヲ常トス。莖ニハ二ヶ所以上ノ目釘孔
 アリ、鐵製ノ目釘ノツキタルモノ往々ニ存ス。

第七室 神宮諸祭畫圖・御師關係史料

一、二 淺野内匠頭長矩書翰

將軍德川綱吉ノ厄年 平安ノ祈禱ヲ、徳川家ノ御師
 山本大夫へ依頼越シタル書狀ナリ。
 一軸 山本末雄氏出品

四四 齋内親王參宮圖 紙本著色

御巫清直考證
 中村左洲筆

一卷

三〇〇 打刀 白鞘、金襴袋桐箱入 二口

梶山德太郎氏寄贈

在銘奉納天照皇大神宮大廣前
 昭和二年十一月日茲南住藤原氏正謹作
 藤原氏正、姓ハ梶山、名ハ德太郎、氏正ハ其ノ刀
 銘ナリ。廣島縣仁方町ノ出身ニシテ、現ニ東京市
 四谷區坂町ニ住ス。常ニ日本刀鍛錬ノ衰退ヲ慨キ
 自ラ槌ヲ振ヒ、專念苦心ノ謹作ヲ、眞ニ神宮ヲ始
 メ明治神宮・臺灣・朝鮮神宮ニ奉納シ、又宮家ニ

第七室

三

モ獻納シタル事一再ナラザリシガ、昭和八年八月
月荒木陸軍大臣ヨリ選拔セラレタル全國ノ二刀
匠ノ一ニ加ヘラレ、刀銘ナ「靖徳」ト命セラレ、
靖國神社境内ニ於ケル日本刀鍛錬場ニ出仕
シ、傍ラ財團法人日本刀鍛錬會ヲ組織シ、之
ガ製作ニ精進シツ、アリ。

二九三 淺野隼人神領寄進狀

一通

播州赤穂郡狹野村ニ於テ、高十石ヲ寄進シタル、
椿叟太夫宛元祿十三年六月十三日ノ狀ナリ。

九六 井伊直弼奉納刀

白鞘 一口
金襴袋入

松田健壽氏出品

嘉永七年十一月撰夷祈願ノ爲、幣帛ニ添ヘテ奉納
シタルモノニシテ、其ノ御師松田長大夫家ニ傳フ
ルトコロナリ。

二八四 井伊直弼攘夷祈願文

一通

嘉永七年十一月近衛少將藤原朝臣直弼、豊受大神宮
ヘ撰夷ヲ祈願セシ願文ニシテ、井伊家御師タリシ松
田長大夫家ヨリ出ツ。

三〇〇五 宗光刀

長一尺九寸九分 拵付 一口
反七分

大阪毎日新聞社前社長寄贈

在銘 備前國住長船左京進宗光、文龜三年八月
吉日影八幡大菩薩、五大刀菩薩、拵銘紀
府住金原一雙(華押)慶應三丁甲子春作之
昭和二年十一月三日、皇大神宮ニ、本山前大阪毎
日新聞社長ノ奉納セシモノナリ。

二九二 徳川歴代將軍春木家神領朱印十通ノ内

御師ハ又師職トモ云ヒ、古來神宮ニ於テ私幣禁斷
ノ結果、私人ノ祈禱奉賽ノ爲ニ生ジタルモノニ
シテ、本來詔刀師又ハ御禱師ト稱セリ。詔刀師ノ
名目ハ長曆二年、御禱師ハ壽永三年ノ記録ニ見エ
タレバ、ソノ由來遠キコトヲ知ルベシ。足利時代以

第七室

離宮院御駐輿、十六日豊受大神宮ニ御参向、祭
典終リテ後離宮院ニ還啓ス。十七日皇大神宮ニ
御参向、祭典終リテ後離宮院ニ還啓、十八日齋
宮寮ニ還啓シ給フ例ナリキ。

二七五 明治二年伊勢行幸繪卷(卷首寫) 下卷

中村左洲筆 絹本着色

二五三 内宮上棟祭圖

明治四十二年度 川口吳川筆
宇治橋渡初圖 絹本着色

二六三 御蔭參繪卷

絹本着色 川口吳川筆 一卷
宮川川原・茶屋町邊ヲ描キシモノナリ。

三二七 おかげ幟

一旒 松木時彦氏寄贈
慶應年間飯田氏ノ使用セシモノ。

三四九 御蔭參柄杓

一柄

「大神宮御蔭參北伊勢」ノ記入アリ。

二六六 明應三年永代賣渡道者證券

一軸 竹内文平氏出品

二九 永祿五年政光花押證券

一軸 上

一〇〇 天正五年春木善三宛春木彌八郎種光判

證券 一軸 同 上

三四四 内宮長官筆蹟張込屏風

一隻
長享元年ヨリ明治四年神宮制度御改正マテ、約三百
八十四年間ニ於ケル、内宮長官守武神主以下二十九
名ノ筆蹟ヲ集メタルモノ。

一〇三七 大神宮奉獻篠島伊吹鯛曳圖(木版)一枚

中西一夫氏出品



第七室

後、御師ハ諸國ノ武士人民等ト特殊ノ關係ヲ結ビ、之ヲ檀家・檀所又ハ道者ト稱シ、年々代官ヲ派シ、御祓ニ土産ヲ添ヘテ之ヲ賦リ、初穂即チ金穀ノ供進ヲ受ケ、又檀家ハ參宮ニ方リテ其ノ御師ノ家ニ宿シ、初穂ヲ獻シ、祈禱ヲ請ヘリ。從ツテ檀家ハ御師ノ世襲財産タル觀チ呈シ、後ニハ其ノ賣買等モ行ハレキ。御師ノ中ニハ、神宮ニ於テ祠官タリ、社會上ニ於テ地方政治ノ執行者トシテ、重要ノ地位ヲ占メタルモノ多カリシガ、明治四年神宮制度ノ革新ニ伴ヒ、廢滅スルニ至レリ。
春木大夫ハ徳川將軍家ノ外宮御師職ニシテ、伊勢・遠江・越後等ニ於テ、八百石ヲ領セリ。家康・秀忠兩將軍ノ分ハ、古ク自火ノ爲ニ燒失シ、家光將軍ヨリ家茂將軍ニ至ル各代ノ分ヲ存ス。コハ家光將軍ノ朱印ナリ。

九七 井伊直治奉納神鏡 徑八寸一分 一面

松田健壽氏出品

一三四 山田羽書 各組四十枚

一帖

尾崎駒吉氏出品

二七六 山田羽書料紙 青赤黃

三枚

山田羽書ハ、神都ニ於ケル兌換券ノ稱ニシテ、其發行ノ起源ハ、慶長ノ頃ナラムト云フ。紙ハ美濃産ヲ用ヒ、表裏合セテ十三種ノ判ヲ捺捺スル等、其製精密ニシテ、色ハ一匁白・五分青・三分赤・二分黃色ナリ。

二九四 女房奉書 一通

世木氏公氏寄贈

大典侍殿内ミレ茂ヨリ藤波神主ニ宛テタルモノニシテ、上様法皇様御壽命長久祈禱ノ命ヲ傳ヘタルモノナリ。

二七五 神樂釜 銘濃州南舟原村栗田氏 一口

荒井松次郎氏寄贈

全體鐵鑄物、御師神樂所用

第七室

共

一〇八 神宮御料干鯛貢進帳 文「太一御用」一旒

辻與右衛門氏出品

神宮長官ヨリ、明治初年御饌御費所タル愛知縣知多郡篠島村ニ、與ヘラレタルモノ、一ナリ。

四五 皇大神宮神嘗祭圖 (舊式) 一圖

著色、額裝 中村左洲筆

四六 皇大神宮遷宮圖 (舊式) 一圖

著色、額裝 中村左洲筆

右二圖ハ有栖川宮熾仁親王ノ令旨ヲ奉シ、御取直自ラ稿ヲ草シ、畫工ヲシテ描寫セシメタルモノ。

〇三五 御撫物 一包

〇三 伊勢大々神樂圖板木 一枚

〇二六 福島みさき大夫邸寫真 一葉

〇三一 内宮城内鳥瞰圖 吉田初三郎筆 一軸

〇三二 外宮城内鳥瞰圖 同上 一軸

〇三九 昭和四年度式年遷宮繪卷 高取稚成筆 十二卷

第七室

三、四九 伊賀講永代日參額面

一面

二、六四 祈禱所額 一面

中北喜平氏寄贈

舊御師龍大夫神樂殿所用

夫 提子 徳川時代 一對

松田健壽氏出品

二、七〇 舊御師邸神樂圖 一軸

往昔兩宮ニ祈禱ノタメ、神樂ヲ御師ノ家ニ於テ奏進セシガ、維新後兩宮神樂殿ニ於テ、之ヲ奏進スルコト、ナレリ。コハ外宮舊御師邸ニ於ケル、神樂奏ノ狀況ヲ圖セルモノナリ。

二、七二 獅子頭 木彫「千種氏作」ノ銘アリ 一頭

師職家ニ於テ、正月神事ニ飾リシモノナルベシ。

二、六三 瓶子 一對

舊御師龍大夫神樂殿所用

中北喜平氏寄贈

夫

七 供米桶 通稱猫足

一對

松田健壽氏出品

二、九八 竹製箸

三種

舊時伊勢土産及御師お祓配札ニ添へ、土産トシテ行ハレシモノニシテ、此ノ類ノモノニ、匙・みやこ・べに・いせさし・かけまもり・ぜ、がひ・さうだん・ご・すまもり・おはらひびこ・火繩等アリ。火繩ハ妊身ノ婦人腰ニ巻ケバ安産スト云ヒ、三河・遠江アタリノ人、最も多ク求メ行キタリト云フ。

二、七九 小手鼓

一個

舊御師神樂殿所用

二、七六 幣篋

一個

御師神樂殿ニテ、神樂奏ノ時、又道者兩宮參拜ノ

奥山中書氏出品

時、幣物ヲ供フルニ用ヒシモノ。

二、六五 供米桶 通稱猫足

一個

笠井啓次郎氏寄贈

舊御師笠井大夫所用

二、六九 神宮私賽舊様繪卷 (漢寫) 一卷

明治四年神宮制度改正以前ニ於ケル、私人參宮ノ狀ヲ描ケルモノニシテ、宮川渡場及中川原ノ光景ニ圖、將軍家代參・同神樂奏人民參拜・同神樂奏・御師代官權所廻リ發送式ノ七圖ナリ。

二、九二 神樂職式目

一冊

承應二癸巳年制定ノ神樂職式目ナリ。安政四年ノ寫本ナルベシ。

三、四三 御參宮人御名前帳

二冊

明治初年頃、御師ノ使用セシ宿料定書ナルベシ。第七室

千賀健吉氏寄贈

三、四三 御祓賦帳 備前國惣御檀所

一綴

三、四四 御旦所御祓賦帳 三多氣村・杉平村・菅野村

一綴

三、四五 諸國檀中御祓土産帳

一綴

三、四六 御祓土産帳 三多氣村・菅野村・杉平村

二綴

以上 千賀健吉氏寄贈

皇大神宮元日御饌神事御鹽奉仕

并參進圖

一卷

豐受大神宮元日鮎饗神事御鹽奉仕并參進圖

神宮文庫出品

明治維新前ノ祭儀ナリ。

光

第八室 神宮御寶物・撒下御物・神宮祭祀器具

三五 内宮文殿額

一画

文殿ハ齋館内ニ設ケラレ、古代ハ神書記録文書等ヲ藏メラル、庫藏ナリシガ、後ニハ別ニ神庫ヲ創立シ、文殿ハ神官ノ講習討論或ハ記録勘考ノ場所ニ充テラレ、明治維新後廢セララル。當額ニハ「文殿」ノ二字ヲ刻セリ。

三六 内宮政印

一類

天武天皇ノ白鳳年間、禰宜荒木田神主石門(志已夫)ノ解狀ニ依リテ、神祇官上奏シ、宣旨ヲ賜ハリテ、鑄下セララル。コレ即チ皇大神宮政印ノ始ナリ。其後承暦三年二月二十一日外院ノ炎上ニ際シ、燒失セシヲ以テ、同年七月二十三日原形ニ模シテ再ビ鑄下セラレタリ。昭和十二年チ距ルコト八百五十八年ナリ。

三九 内宮政印印筒

一合

承暦三年七月二十三日、御政印ト共ニ寄進セラレタルモノナリ。

三〇 豊受宮印

一類

貞觀五年九月十三日、禰宜度會神主眞水ノ解狀ニ依リテ神祇官上奏シ、内宮政印ノ例ニ準シテ鑄下セララル。昭和十二年チ距ルコト一千七十四年ナリ。

三一 豊受宮印印筒

一合

元木製ナリシヲ、承徳二年十二月二十六日銅ニ改鑄セララル。側面ニ「宣旨奉造承徳二年庚寅十二月二十六日庚子」ノ十八字ヲ彫メリ。

三二 大神宮印

一類

天平十一年十二月二十三日神祇官ノ上奏ニ依リテ、始メテ之ヲ鑄下セララル。然ルニ寶龜三年正月大神宮司大中臣朝臣比登ノ宿館燒亡セシ時、其ノ災

第八室

○皇大神宮御料 明治四十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一〇五四 白玉 各徑三分 四十一丸 一連

○皇大神宮御料 明治二十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一〇八〇 御鞆 袋赤地唐錦 一枚

○皇大神宮別宮風日祈宮御料 明治二十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一〇三三 御鞆 袋緋練綾 一枚

○皇大神宮別宮伊佐奈彌宮御料 明治四十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一一二四 五色吹玉 百十八丸 袋緋練綾 一連

○豊受大神宮御料 明治四十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一〇六六 紫御髻結 一條

○豊受大神宮御料 明治二十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一〇九四 御鞆 袋赤地唐錦 二枚

一〇九六 御鞍 一具

○皇大神宮別宮月讀宮御料 明治四十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一一〇〇 梓御弓 袋赤地唐錦 二張

一一〇四 蒲御鞆 箭六十隻 一腰

○皇大神宮御料 明治二十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一〇七九 御弓 袋赤地唐錦 一張

一〇七九 錦御鞆 鳥羽箭二十隻 一腰

○徳川將軍奉納太刀身及ビ拵

第八室

ニ羅レリ。後仁壽三年十一月三日大神宮司大中臣朝臣伊度人ノ解狀ヲ以テ、神祇官ヨリ上奏シ、齊衡二年八月十日原形ニ模シ、再ビ鑄下セラレ。昭和十二年ヲ距ルコト一千八百二十二年ナリ。

三三 大神宮司印筒 平安時代 一合

元木製ナリシヲ、長徳四年五月二十日銅ニ改鑄セラレ。側面ニ「大神宮司正印筒元彫木也而大司公忠、長徳四年五月二十日鑄ニ改於銅」ノ二十八字ヲ彫メリ。

四七 御太刀身 殘缺 五柄ノ内

明治二年皇大神宮東御敷地ノ内、玉垣北御門長ノ方ヨリ發掘セシ古神寶ナリ。

四三 御銜 殘缺 一具

皇大神宮西ノ鳥居建設地ヨリ發掘セシ古神寶ナリ。

四六 銚身 二本

三

四四 太刀拵 (正恒) 一口

錫銅作金覆輪雲形居紋、切羽四枚金、鈕金著、目釘金、將軍德川吉宗、皇大神宮ニ奉納、身ハ別ニ藏ム。

四七 太刀 一口

刀身長三尺三寸六分五厘、刃文直及佩表物打ニ足入、無銘、折紙大和千手院、拵錫銅作金覆輪桐居紋、切羽四枚金、鈕金著、目釘金著、京都所司職伊賀守松平忠周、皇大神宮ニ奉納。

四五 太刀拵 (助宗) 一口

明和六年九月將軍德川家治、皇大神宮ニ奉納。

四六 太刀拵 (遠近) 一口

寛政元年九月將軍德川家齊、皇大神宮ニ奉納。

四九 太刀拵 (則長) 一口

文化十一年十二月將軍德川家齊、皇大神宮ニ奉納。

四〇 助吉作 長二尺三寸六分、刃文丁字、在銘助吉將軍家重、皇大神宮ニ奉納

四二 信房作 長二尺三寸五厘、刃文直及、小亂交ル、在銘信房、皇大神宮ニ奉納

五五 國光作 長二尺四寸三分、刃文直及亂交ル、在銘國光、皇大神宮ニ奉納

五七 守友作 長二尺五寸一分、刃文直及、中央ヨリ下丁字心ニ亂ル、在銘守友、皇大神宮ニ奉納

四三 助宗作 長二尺三寸九分、刃文逆足丁字鑄ニカアル、表銘一文、裏銘助宗、皇大神宮ニ奉納

四三 雲生作 長二尺三寸四分五厘、刃文直及、在銘雲生、皇大神宮ニ奉納

五九 遠近作 長二尺三寸二分五厘、刃文丁字、在銘遠近、皇大神宮ニ奉納

五〇 正廣作 長二尺三寸四分五厘、刃文直及、在銘肥前國河内大椽藤原正廣、皇大神宮ニ奉納

五六一 忠廣作 長二尺三寸五分、刃文亂、在銘肥前國住近江大椽藤原忠廣、皇大神宮ニ奉納

皇大神宮別宮伊雜宮御料、寛正三年御遷宮以前奉納ノ古神寶ナリ。

四〇 御柄 革製 一枚

寛正三年御遷宮以前奉納ノ古神寶ナリ。

三三 貝桶 貝百八十八對、良恕法親王御筆色紙一對

慶長十二年新上東門院ヨリ、内宮子良館ニ賜ハリシモノニシテ、貝ノ歌ハ震筆ヲ始メ、女院・時ノ禪閣・關白・大臣等、高貴ノ人ノ手ニテ書カレタルモノナリトゾ。子良トハ朝夕ノ大御饌其他祭典ニ奉仕セシ童女ノコトナリ。

◎皇大神宮御料 明治二十二年式年遷宮調進

昭和四年撤下

一七四 梓御弓 袋赤地唐錦 一張

◎豊受大神宮御料 明治二十二年式年遷宮調進

昭和四年撤下

第八室

第八室

- 一〇七 白馬形 口取添 一匹
- 一〇八 梓御弓 袋赤地唐錦 一張
- 一〇九 御胡籙 一腰
- 一〇五 折櫃 一合
- 一〇四 神御衣櫃 大・中・小 三合
- 一〇三 楊宮 大・中・小 三合
- 一〇二 笠 菅製、風日祈御祭儀料 一枚
- 一〇一 蓑 菅製、風日祈御祭儀料 一枚

- 五二 是一作 長二尺三寸五分、在銘藤原是一將軍家定 皇大神宮ニ奉納
- 五三 國正作 長二尺三寸七分、爛及五ノ目、在銘藤原國正 皇大神宮ニ奉納
- 五四 康繼作 長二尺三寸三分五厘、又文五ノ目亂、在銘康繼 皇大神宮ニ奉納
- 五五 元繼作 長二尺三寸五分、又文丁子、在銘元繼將軍慶喜 豐受大神宮ニ奉納
- 五六 俊忠作 長二尺四寸九分五厘、又文直又亂交ル、在銘俊忠 皇大神宮ニ奉納
- 五七 國俊作 長二尺五寸三分、又文直又、佩裏ニ逆亂交ル 在銘來國俊 皇大神宮ニ奉納
- 五八 守次作 長二尺二寸七分五厘、又文亂五ノ目交リ表裏通二筋、在銘守次 皇大神宮ニ奉納
- 五九 國永作 長二尺五寸一分、又文小丁子、在銘國永將軍吉宗 豐受大神宮ニ奉納
- 六〇 景依作 長二尺三寸六分、又文小亂直又交ル、裏表通アリ、表銘備前國住人左近將監景依造、裏銘永仁六年十月十日 將軍吉宗 皇大神宮ニ奉納

- 一一三 錦 一端
- 一一〇 麻 一兩
- 一一四 絹 一匹
- 一一一 木綿 一兩
- 一一二 五色絹 青・黃・赤・白・黒 五條
- 一一三 五色絹・錦・麻・木綿ハ祈年・月次・神嘗ノ諸祭ニ朝廷ヨリ神宮ニ奉納アラセラル、幣帛ノ一ナリ。
- 一一四 瓶子 一個
- 一一五 寶盛篋 一個

- 六一 國俊作 長二尺三寸七分五厘、又文直又足入佩裏中央ニ丁子アリ、在銘來國俊 將軍吉宗 豐受大神宮ニ奉納
- 六二 吉包作 長二尺二寸九分五厘、又文直又、在銘吉包將軍吉宗 皇大神宮ニ奉納
- 六三 正恒作 長二尺三寸二分、又文直又、亂交ル、在銘正恒 皇大神宮ニ奉納
- 六四 助久作 長二尺四寸二分五厘、又文丁子、在銘助久將軍家繼 豐受大神宮ニ奉納
- 六五 家次作 裏銘圓光、長八寸六分、又文廣直又亂交ル 將軍德川綱吉ノ母 皇大神宮ニ奉納
- 六六 太刀拵 一文字 一口
- 六七 太刀拵 長光 一口
- 六八 一文字作 長二尺三寸二分、又文丁子、在銘一文字將軍家光 皇大神宮ニ奉納
- 六九 來國行作 無銘、長二尺三寸二分、又文半ヨリ上廣直又下丁子 將軍家光 豐受大神宮ニ奉納

第八室

六六 耳皿

二個

二六 饗膳案

一脚

以上四点ハ大神宮遷宮奉幣又ハ杵築祭等ノ節、饗膳ノ用器ナリ。

二四三 玉串案

葉薦添

一脚

二四二 中幣案

葉薦添

一脚

三二五 配筒

檜材曲物

高六寸五分
徑七寸

一合

横地晃重氏寄贈

明治四年神宮制度御改正以前マテ、皇大神宮御饗祭ニ用ヒラレシモノ。

二六七

神宮上棟祭撒錢

一個

村井市平氏寄贈

六

三八 吉信作

長二尺七寸四分、又文直及丁子交ル裏樋アリ、在銘吉信、將軍家綱、皇大神宮ニ奉納

三九 助長作

長二尺三寸九分、又文直及小丁子交ル彫物梵字、在銘助長、將軍家綱、豐受大神宮ニ奉納

三〇 長光作

長二尺六寸一分五厘、又文直及、在銘長光、將軍家綱、皇大神宮ニ奉納

三一 康光作

長二尺四寸七分、又文逆亂、在銘康光、將軍家綱、皇大神宮ニ奉納

三二 長光作

長二尺三寸七分五厘、又文大丁子、在銘長光、將軍家綱、豐受大神宮ニ奉納

三三 友成作

長二尺四寸五厘、又文小亂交ル逆心フクヲノ内二重及、在銘友成、將軍家綱、豐受大神宮ニ奉納

三四 守次作

長二尺五寸三分、又文直及沸付、在銘守次、將軍家綱、豐受大神宮ニ奉納

三五 舊御田祭用扇

長六尺、豐受大神宮御常供、御田植神事ノ田舞ニ用ヒシモノ

二本

六〇一 楊篋

金幣奉納ノ時用フルモノ。

一合

六〇六 鹽焼形

神宮御料ノ御鹽ハ、皇大神宮御鎮座ノ時、二見郷ニ御鹽濱井ニ御鹽山ヲ定メ、其ノ山ノ木ヲ伐リテ、燒キ進メラレタルニ基因シ、今モ二見ノ御鹽殿ニテ調進スルナリ。即チ毎年夏期御鹽濱ニテ、水鹽ヲ汲ミ取リ、殿内ニ於テ鐵平釜ニテ燒キ堅メ、之ヲ荒鹽ト稱シ、御鹽殿ニ貯藏シ、必要ニ應ジテ更ニ土塙形即チ本焼形ヲ以テ、堅鹽ニ精製シ、御料ニ供スルナリ。

二個

一一五 水碗

水碗

二個

一一六 盃

盃

二個

一一〇 酒壺

酒壺

二個

一一五 御箸

御箸

二双

第八室

ノ、享和三年五月調製ノモノナリ。

九 御田祭圖

一卷

皇大神宮御常供御田植祭ノ圖ニシテ、此神事ハ内宮ハ四郷村大字楠部、外宮ハ岡本町宮崎ナル御常供田ニテ、毎年五月吉日ヲトシテ行ハレシモノナルガ、明治四年神宮制度御改正ニヨリ廢セラレ。

〇二四八 内宮御神寶圖

一卷

〇三二九 外宮御田祭圖版本

一枚

一、二六 御箸台 オシハシダイ 二個

一、二五 三寸土器 内一枚盃 二枚

一、二四 四寸土器 二枚

一、二三 六寸土器 二枚

神宮供御ニ用フル土器調製ノ起源ハ、皇大神、美濃國伊久良河宮ニ御遷行ノ時、同國縣主采女忍比賣之レチ獻セシニ初リ、五十鈴宮ニ御遷座ノ後ハ、伊勢國多氣郡宇爾郷ニ居住シ、天毘良加ノ壇ヲ探リ、毘佐々井ノ水ヲ以テ、年中祭祀ノ土器ヲ調進シ、其ノ子孫世々祖業ヲ襲ヒテ神宮ニ奉仕セリ。後世幾多ノ變遷アリシモ、明治十五年之ヲ復舊シ、宇爾郷ナル明星村大字養村ニ於テ、調製納入スルコト、ナレリ。

一、二二 結燈台 ムスビトウダイ 油皿・搦立棒添 一個
祭事ニ神前ニ用ヒラル、燈火ノ具ナリ。

一、二四 火桶 ヒツク 油皿・搦立棒添 一個

一、二三 土塀台 一個

一、二二 小土塀 サウダクワ 一個
神宮祭典ノ節手水ニ用ヒラル。

一、二一 丸飯 マルコシキ 一個
神饌ノ米ヲ蒸ス器ナリ。

一、二〇 御火鑽具 ヒキヤリ 心棒・板添 一具
神宮忌火屋殿(御炊殿)ニ於テ神饌品ヲ調理シ奉ル時忌火ヲ出ス具ナリ。

◎豊受大神宮御料 明治二十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一、一九 御木絡練 オシボカケ 金一・銀一 二基

一、一八 御簍 オシツツ 二枚

◎皇大神宮御料 明治四十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一、一四 銀銅御搨 ギンドウノオシタ、リ 一基

一、一三 金銅御搨 コンドウ 一基

一、一二 金銅御麻笥 オシマタケ 一口

一、一五 金銅御鑄 オシツム 一枚

一、一六 銀銅御鑄 一枚

一、一七 金銅御杖 オシカセヒ 一枚

一、一八 銀銅御杖 一枚

◎皇大神宮別宮月讀宮御料 明治四十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一、二四 御鈴 オシスズ 一口

◎皇大神宮御料 明治二十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一、二〇 錦御履 ニシキノオシクツ 表青地錦、裏黃地錦 一兩

◎豊受大神宮御料 明治二十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

一、一七 錦御鞆 ニシキノオシクツ 表赤地錦、裏青地錦 一兩

第九室 神宮撤下御物

◎皇大神宮別宮荒祭宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.101 吳床 一具

1.100 白葛御鞆 箭各四十隻 二腰

◎皇大神宮別宮月讀宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.102 御鏡 袋緋綾襦袢宮入 一面

1.103 革御鞆 箭各六十隻 二腰

1.104 金銅火桶 火取籠・火爐・箸・匙 一口

◎皇大神宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.105 御鏡 鏡籠宮入 一面

1.106 御鏡 同上 一面

◎皇大神宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.107 屋形紋錦御被 裏白綾 一條

1.108 錦御枕 赤地唐錦裏之 一基

1.109 御帶 内一號綾、二號紫 二條

1.110 新羅組 一條

1.111 錦御襪 表白地錦、裏生絹 一兩

1.112 小窠錦御被 裏緋絹納綿 一條

◎皇大神宮御料

明治四十三年臨時遷宮調進
明治四十二年撤下

五四 御衣篋 一合

◎豊受大神宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.113 御鏡 鏡籠宮入 一面

◎豊受大神宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.114 刺車錦御被 裏緋綾納綿 一條

1.115 錦御枕 赤地唐錦 一基

1.116 錦御襪 裏白絹 一兩

1.117 緋錦御衣 裏緋綾納綿 一領

第九室 神宮撤下御物

◎皇大神宮別宮瀧原並宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.118 銀銅御杖 一枚

1.119 銀銅御搥 一基

◎皇大神宮別宮月讀宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.120 陶猿頭形硯 一面

1.121 大筒 小筒四口添 二口

1.122 皇大神宮御料 明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.123 御櫛筒 御櫛四枚添、袋赤地唐錦 二合

1.124 革御鞆 鷲白羽三十二隻 一腰

◎皇大神宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.125 銀銅御杖 一枚

◎皇大神宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.126 銀銅御搥 一基

◎皇大神宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1.127 銀銅御麻笥 一口

◎皇大神宮別宮伊佐奈彌宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

一、二七 錦御鞆 箭二十隻 一腰

一、二二 金銅御搨 二基

一、一九 金銅御麻笥 二口

一、一三 御鑊 二枚

一、一三 御木絡練 二基

一、一〇 金銅御杖 二枚

◎皇大神宮別宮伊雜宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

一、二六 金銅御高機 架一脚添 一具

一、〇七 吳錦御裳 裏帛絹納綿 一腰

◎皇大神宮別宮月讀宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

一、一三 御楯 二枚

一、一五 鶴斑毛御彫馬 一匹

一、一八 金銅造御太刀 一柄

一、二九 銅黒造御太刀 二柄ノ内

一、一七 御鞍 一具

差繩 濃淡緋絹二捻 二條

手綱 緋平組 一條

鞍袋 赤地錦 一口

一、二五 金銅御搨 二基

◎豊受大神宮別宮土宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

一、二三 御胡籙 箭各十隻 二腰

一、二四 御鞆 箭十隻 一腰

◎豊受大神宮別宮多賀宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

一、二七 御楯筒 櫛七枚袋赤地唐錦 一合

三、一八 外宮御正殿御鯉木 長九尺五寸、
直徑二尺二寸、
重量百二十五貫六百匁

明治四十二年式年遷宮御造營
昭和四年撤下

◎皇大神宮御料

明治四十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

一、二五 金銅御搨 二基

一、二六 金銅御高機 架一脚添 一具

一、二三 御胡籙 箭各十隻 二腰

一、二四 御鞆 箭十隻 一腰

一、二七 御楯筒 櫛七枚袋赤地唐錦 一合

三、一八 外宮御正殿御鯉木 長九尺五寸、
直徑二尺二寸、
重量百二十五貫六百匁

明治四十二年式年遷宮御造營
昭和四年撤下

一、二七 御楯筒 櫛七枚袋赤地唐錦 一合

三、一八 外宮御正殿御鯉木 長九尺五寸、
直徑二尺二寸、
重量百二十五貫六百匁

明治四十二年式年遷宮御造營
昭和四年撤下

一、二七 御楯筒 櫛七枚袋赤地唐錦 一合

三、一八 外宮御正殿御鯉木 長九尺五寸、
直徑二尺二寸、
重量百二十五貫六百匁

第九室

一、三五 鷓尾御琴

トビノヲノオシコト

一面

一、七四 玉纏御太刀

タマキリオンタチ

平緒新羅組一條
袋纏細錦

(卷首寫)
真參照

一柄

一、七五 須加利御太刀

スカリ

平緒新羅組一條
袋纏細錦

(卷首寫)
真參照

一柄

一、七六 金銅造御太刀

スエ

平緒赤地唐錦
袋赤地唐錦

(卷首寫)
真參照

一柄

◎ 豊受大神宮御料 明治二十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

一、八九 第一御太刀

スエ

平緒新羅組一條
袋赤地唐錦

(卷首寫)
真參照

一柄

一、九〇 第二御太刀 同上

(卷首寫)
真參照

一柄

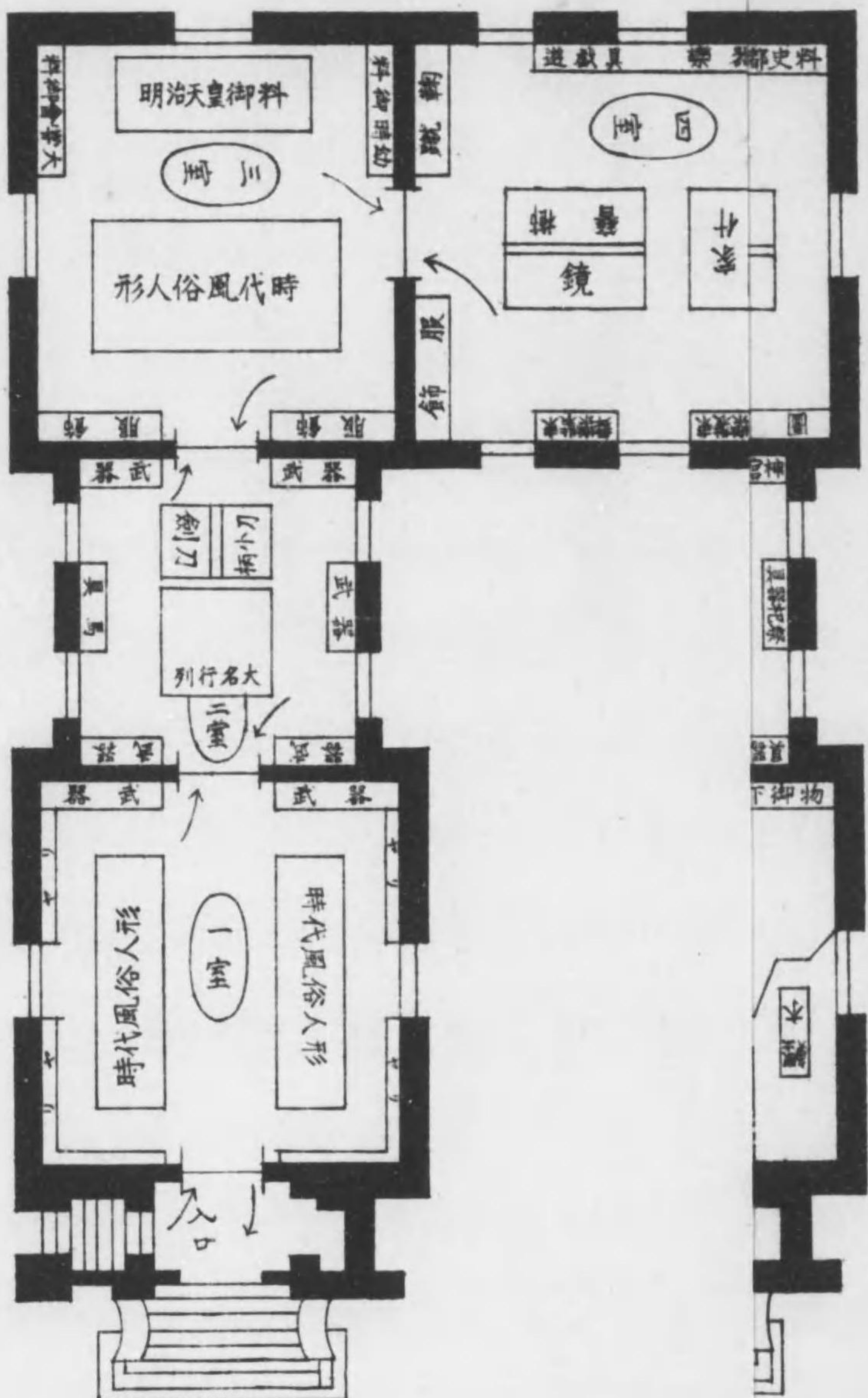
四

一、九一 第三御太刀

平緒赤地唐錦
袋同上

(卷首寫)
真參照

一柄



1076 金銅造御太刀

平緒赤地唐錦
袋赤地唐錦

(卷首寫
真参照)

一柄

◎豊受大神宮御料

明治二十二年式年遷宮調進
昭和四年撤下

1079 第一御太刀

平緒新羅組一條
袋赤地唐錦

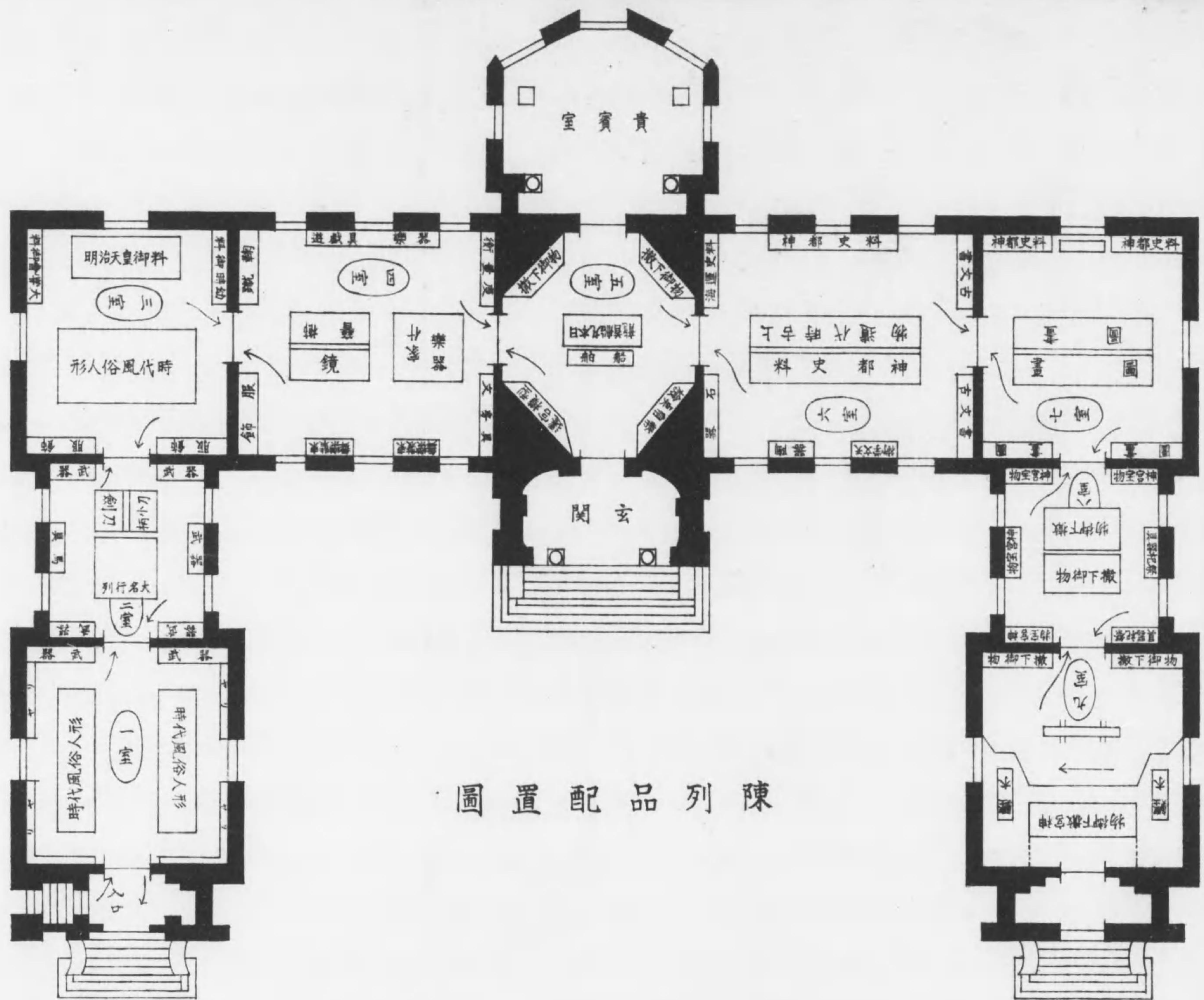
(卷首寫
真参照)

一柄

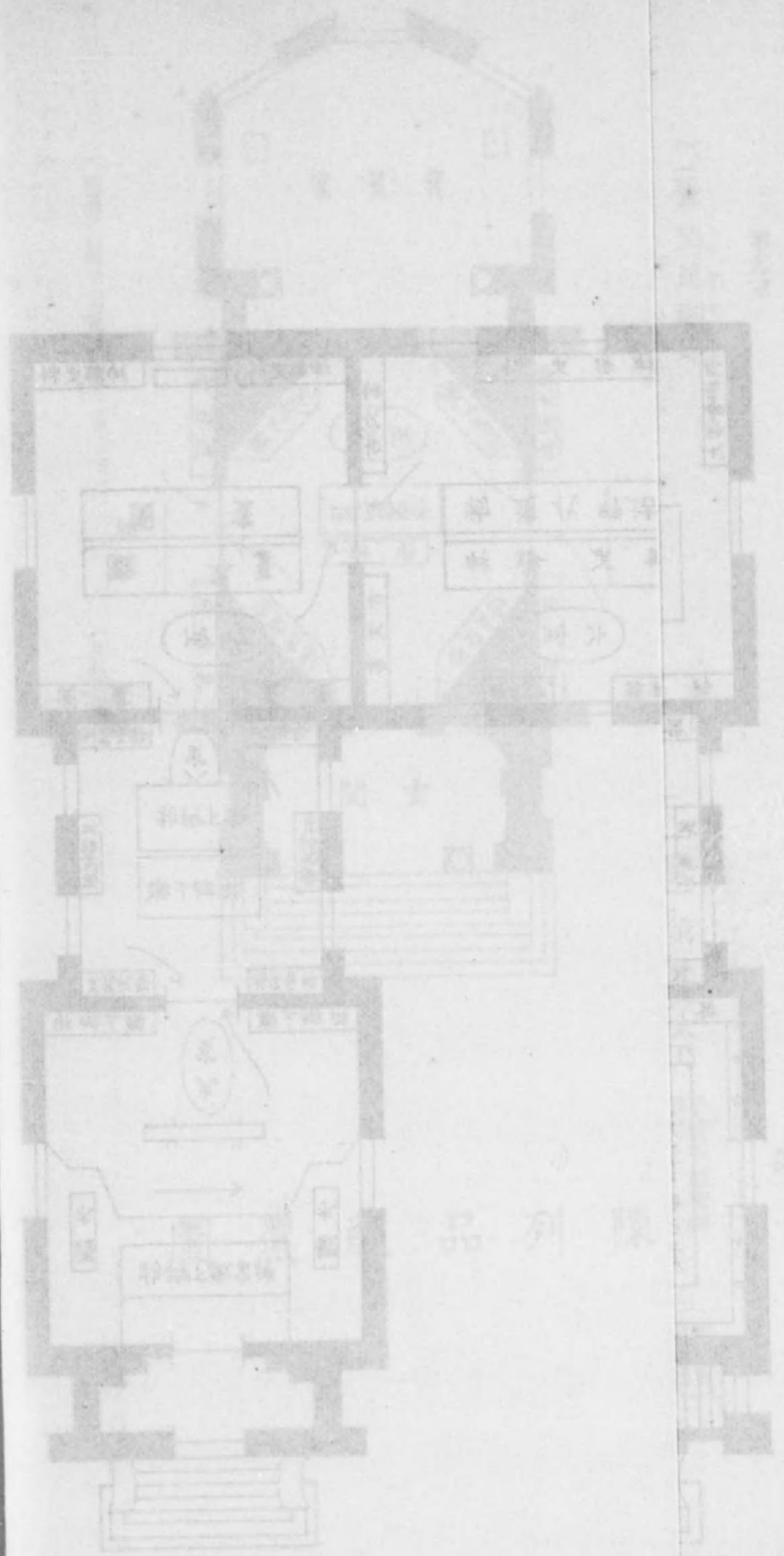
1080 第二御太刀 同上

(卷首寫
真参照)

一柄



陳列品配置圖



昭和十二年十月一日訂正十二版印刷
昭和十二年十月五日訂正十二版發行

神宮徴古館農業館

三重縣宇治山田市岡本町二七番地

印刷所 橋爪印刷所

神宮徵古館農業館發行

伊勢新名所歌合繪卷	航海圖寫真	即位禮 大嘗祭 資料陳列目錄 (大正度)	農業館繪葉書	神宮風景繪葉書	徵古館繪葉書	農業館陳列品要覽	徵古館陳列品略解
下卷模本		四六版	八枚	八枚	各組八枚	四六版	四六版
一卷	一枚	一冊	一組	一組	四組	一冊	一冊
金貳拾圓	金五拾錢	金貳拾錢	金拾錢	金拾錢	一組金拾錢	金參拾錢	金參拾錢

373
964



終